

Cast Party 2021 (Jp)



Told by Ryusui Seiryoin, Kenichi Sobu, Kysouke Tsumiki, Ryosuke Akizuki,
Akio Fujieda, Ryu Sakashima, and Agent Kunugi

Cover design by Tanya

Copyright © 2023 The BBB: Breakthrough Bandwagon Books

All rights reserved.

1. Opening ～清涼院流水（The BBB 編集長）ご挨拶



（※YouTube ではイベント動画「The BBB Cast Party 2021@Zoom」をご覧ください）

清涼院流水（以下、清涼院）：皆さん、こんにちは。今日は2021年12月12日、日曜日。

「Cast Party 2021」が始まりました。「Cast Party」というのは毎年、The BBB のイベントとして年末に開催しているのですが、去年 The BBB 初のオンライン・イベントとして初めて Zoom で開催しました。今年は2年連続での Zoom 開催となります。今、日本はコロナ（新型コロナウイルス COVID-19）の状況がわりと落ち着いていますので、もしかしたら、リアル・イベントのほうが良かったと思われている方がいらっしゃるかもしれませんが、コロナは諸外国ではまだ猛威をふるってしまっていて、日本でもオミクロン株が次々に見つかっているという状況で。今年の「Cast Party」を準備する段階で迷ったのですが、リアル・イベントを決断するのは危険かと思いました。それで Zoom イベントを決断しました。また、昨年、初のオンライン・イベントを開催しましたところ、けっこう初参加の方がいらっしやって。去年は参加者の半分の方が初参加でした。なおかつ、地方都市からの参加が多かったということもありまして。今年の「Cast Party」は、北海道と九州からの参加はなかったのですが、本州の地方都市の方も参加してくださっていますし。今年も初参加と去年に続いて2回目参加の方で半数くらいになります。そういう意味で、開催して良かったと思います。

去年は、コロナ禍で電子書店がかなり混乱してしまっていて。去年は、その電子書店の状況をお話する、というのがメインで。それもあって昨年、開催したんです。ところが、去年は本当に話すことが多くて、Opening が非常に長くなったんです。去年は Opening が 45 分も続いて、

その影響で各出演者のコーナーが短く、10分強くらいになってしまいました。今年はこのOpeningでお話しすることをだいぶ短く整理していますので、出演者の皆さんのパートは、おひとり15分から20分ずつを想定しています。15分から20分なので、だいたい15分が経過したくらいで出演者の方たちにお伝えして、ラスト5分以内にまとめていただいて、20分以内にきっちり終わる、という形にしたいと思います。ターニャ、スライドの次のページを、お願いします。本日の予定を表示していただけますか。

本日の予定

1. Opening
～清涼院流水 (The BBB 編集長) ご挨拶
2. エージェント工刀さん (The BBB 校正責任者)
3. 坂嶋竜さん (評論家)
4. 秋月涼介さん (作家)
5. 真山知幸さん (偉人本&名言本 著者)
6. 蘇部健一さん (作家)
7. 藤枝暁生さん (酒場本&英語本 著者)
8. 積木鏡介さん (作家)
9. The BBB 10周年記念プロジェクト 発表
10. Q&Aセッション (延長の可能性あり) ～Ending

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: これが本日のプログラムです。今、僕がお話ししているのが、この「Opening ～清涼院流水ご挨拶」というところです。このコーナーは、まだしばらく続きます。皆さんに、この予定をご覧いただきたいです。5番のところに真山知幸(まやま・ともゆき)さんという方がいらっしゃいます。重要なお連絡なのでお伝えしておきますと、真山さんがご家庭の用事で到着が遅れる予定です。到着と言いますかご自宅なのですが、Zoomに入室するのが遅れる予定です。その正確な時間が読めなくて、おそらく16時すぎくらいになるんじゃないか、ということで。というわけで、たぶん真山さんの出番は、この予定より遅くなります。僕の現時点での予想としては、真山さんを飛ばして、蘇部(そぶ)さんコーナーを先にさせていただいて。蘇部さんまで終わったあたりで前半終了となれば、ちょうど16時すぎ、というのが理想のペースかな、と思っています。ですから、真山さんがどこで登場されるかは、現時点では言えないのですが、真山さんは到着された次のコーナーで出演、ということにさせていただきます。また、ほかにも遅れて入室される方が今日は何人かいらっしゃいますので、それはお気になさらず集中していただければ、と思います。と言いますか、皆さんはカメラOFF、マイクOFFなので、お手洗いにいかれたり、所用で席を外していただくのは、まったく自由です。

このあと、Opening が終わりましたら、エージェント工刀（くぬぎ）さんから順番に出演者の方に登壇していただきます。で、いちばん下のほうの9番。「The BBB 10周年記念プロジェクト発表」、これが今日のメインであり、今年が目玉企画です。これについては、おそらく、皆さん、驚かれる方が多いと思いますし、いろいろ感じるところの多い特別なニュースだと僕は思っています。ですから、これは皆さん、発表のあとに、これは応援したいなと思われた方は、ぜひ SNS などで拡散していただければと思います。この「Cast Party」の最中から SNS で拡散していただいても、ぜんぜん大丈夫です。ちなみに、この「10周年記念プロジェクト」は、出演者の皆さんも、まだぜんぜん知らないのです。もしかしたら、今、ドキドキされているかもしれないです。そして、「Q&A セッション」というのが最後にあります。これは毎年やっているのですが、皆さん、けっこうシャイと言いますか、出演者の方たちになかなか質問して下さらないのですが、遠慮なくどんどんチャットで質問していただければ、と思います。最後、「Q&A セッション」があまり質問がないと盛り上がらないので、僕が考えたのは、今日は、「出演者から出演者への質問」もありだなと思っています。出演者の皆さんも、質問を受けるだけじゃなく、自分も質問していいんだ、という感じで、ほかの方のパートも聞いていただけると、ありがたいです。

そして、皆さん、チャットのほうは、どんどん書き込み自由ですので。イベント中に何か思ったことなどあれば、チャットにどんどん書き込んでいただければ、と思います。僕や出演者のトークしている最中の方は、なかなかチャットは読めないのですが、参加者の方とか、ほかの出演者の方はご覧になっていると思いますし、The BBB サイト管理人の K.G.さんという方が、チャット・サポートとしてチェックしてくれていますので。チャットは、いつでもご自由にお書き込みください。また、もしお困りのことがあった時などにも、チャットでお知らせいただければと思います。だれも気づかない場合には、マイクを ON にして、お伝えいただいても OK です。本日の予定についての説明は以上です。まだ Opening ですが、スライドの次のページを、お願いします。

清涼院流水 (せいりょういん・りゅうすい)

1996年、『コズミック』で
第2回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。

The BBBでは、編集長と英訳者を務める (たまに著者も)。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 本日、僕も含めて、出演者全員に、このようなページを用意しています。これは、出演者の簡単な紹介です。まず僕が最初の出演者ということで、自己紹介も兼ねて、このページで、ご挨拶させていただきます。「清涼院流水。1996年、『コズミック』で第2回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。The BBBでは、編集長と英訳者を務める。たまに著者も。」ということで、下に並んでいるのが、最近、僕が出した本です。左下にある『きみと行く 満天の星の彼方へ』というのは、TOEIC (トイーック) の小説です。TOEICの受験者をドラマにした小説で、右下から2番目にある『三日坊主でも英語は伸びる』というのは、英語勉強法についての本です。そして、赤い表紙の『ラジオ英会話』は、去年のキャスパで発表したプロジェクトで、実は、2021年4月から『ラジオ英会話』(のテキスト上)で僕が連載します、ということで。連載内容は、早稲田大学の名誉教授のジェームス・M・バーダマン先生という有名な英語指導者の方がいらっしゃるのですが、その方が「英語で読む戦国武将列伝」という英文を書かれて、その翻訳(和訳)を僕が担当させていただいています。これを今年の4月に連載開始しまして、今、12月号が映っていますけれど。当初は、2022年3月号で終わる予定だったんです。1年間で。ところが、この連載が幸い、かなり好評のようで、もう1年、延長することになりました。来年度も継続しまして、今のところ、2023年3月号まで、丸2年間、連載させていただけることになりました。本当にありがたいお話です。この連載はね、毎月、戦国武将をひとり紹介しているんです。2年間で24人紹介して、だいたい有名どころはおさえてしまうので、たぶん、どれだけ好評でも3年目はないだろうな、と予想しています。そして、右下に『どろどろの聖書』という本があります。これが、現時点での僕の最新刊です。これは先月、2021年11月に出版ばかりの本で、僕の「作家デビュー25周年記念作品」で、著作80冊目の節目でもあります。聖書のガイド本です。聖書の中にある、どろどろの愛憎劇だけ

をまとめていて、週刊誌を読むような感じで、気軽に愛憎劇を読んでいくと、聖書の全体像が把握できる、という本なので。もし興味のある方は、手にとっていただけると嬉しいです。では、次のページをお願いします。

The BBBが2012年12月1日の創設から現在まで 9年間に刊行してきた作品の内訳

- ・ 英語の有料作品 71作品 (昨年 + 7)
- ・ 英語の無料作品 46作品 (昨年 + 3)
- ・ 日本語の有料作品 33作品 (昨年 + 2)
- ・ 日本語の無料作品 43作品 (昨年 + 3)

合計 208作品 (昨年 + 15)

※2021年12月現在

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 今、画面に表示されているのは、昨年もこういう表示を出したのですが、The BBB が2012年12月1日に創設されてから現在まで9年間に刊行してきた作品の内訳です。英語の有料と無料作品、日本語の有料と無料作品が並んでいまして、合計208作品です。右側には昨年からの増えた数も書かせていただいています。これだけの作品を出しました、ということで。できれば今年、20作品くらい出したかったのですが、15作品がせいっぱいでした。でも、15作出せたので、なかなか良かったんじゃないかと、自分では思っています。では、次のページをお願いします。今日はOpeningをテンポ良く進めています。

2020年の海外電子書店の異変と2021年の現状

- ・ 英語の無料作品が、すべて有料にされた。
→Amazonは有料、ほかの電子書店は今後は無料。
- ・ 英語作品がKoboでは全作品、
Amazonでは一部が勝手に削除された。
→全作品が復旧。

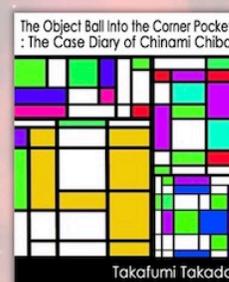
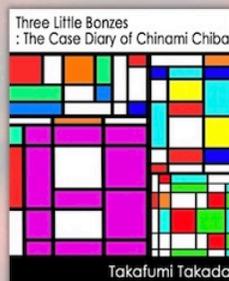


The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 先ほどもお話ししましたが、2020年の海外電子書店の異変と、2021年の現状です。去年は本当に、いろいろなことがありまして、それをお話するのが去年はものすごく長くなってしまいました。去年のキャスパは右下に表示されている無料のeBookになっていますので、ご興味のある方は、そちらをご覧ください、ということです。今年また改めてご説明すると非常に長くなってしまいますので。ただ、画面にありますように、シンプルに現在の状況をまとめました。去年お伝えした最重要事項として、英語の無料作品が、電子書店の都合で、去年、すべて有料にされてしまったんです。ほとんどの電子書店では、また無料で出せるようになったのですが、Amazonは完全に有料になってしまいました。つまり、英語の作品は、Amazonでは、すべて有料となります。また、その下です。去年、英語作品がKoboで全作品が削除され、Amazonでも一部がランダムに削除されましたが、これについては一時的な不具合だったようで、全作品が復旧済みです。ということが確認できました。では、次です。

6年10カ月ぶり、「千波くん」シリーズ再始動！ 最初の2作も新装版で再発売！

- 2014年1月
Three Little Bonzes
(邦題「夏休み、または避暑地の怪」)
- 2015年2月
A Goat On a Boat to Float
(邦題「山羊・海苔・私」)
- 2021年12月
The Object Ball Into the Corner Pocket
(邦題「9番ボールをコーナーへ」)



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: これも発表したい The BBB の大きなニュースです。6年10か月ぶり、「千波 (ちなみ) くん」シリーズ再始動！ 最初の2作も新装版で再登場！ とあります。人気作家・高田崇史 (たかだ・たかふみ) さんの「千波くん」シリーズという短編ミステリーのシリーズがありまして、The BBB では2014年1月と2015年2月に出させていただいていたのですが、あまり反響が大きくなって。見せ方がまずかったのかと反省しまして、著者の高田さんともご相談して、理想の見せ方を模索した結果、まずこの上に表示されている2作品は、新装版となります。最近、2日前 (2021年12月10日) に発売したばかりで、まだ電子書店に行き渡っていないくらいなのですが。そして、今月、この第3弾を、やっと出せることになりました。今もう本当に、最終段階に進んでいて、このキャスパが終わったら本文を最終確認して発売、というところまで進んでいます。この「千波くん」シリーズというのは、ミステリーでありながら、パズルでもあるんです。謎解きパズルという要素が強くて。なので、表紙デザインをしているターニャとも相談して、パズルっぽい表紙にシフトしました。これによって、海外読者にも「これはパズルなんだよ」というのを示したかった、というのが、メインの表紙の変更理由です。で、皆さん、お気づきですかね。表紙に実は、数字が隠れています。わかりますか？ 左上が8で、右上が9、右下は4という数字が隠れているのがわかりますか。これはどういうことかと言いますと、「千波くん」シリーズというのは、1年12か月の中で事件が毎月起きていくんです。1作目は8月の話で、2作目は9月で、3作目は4月なので、その月の番号を表示している、ということです。そういう仕掛けです。では、次です。

2014年から毎週水曜に、
The BBBのFacebookで連載してきた
「モモの世界遺産旅行記」「モモ旅」シリーズが、
日本の世界遺産コンプリートにより、間もなく休止予定。

2013年から毎週月曜・金曜に、
The BBB公式ウェブサイト英語版のトップページで
掲載してきたSemiweekly-Pedia of Japanが、
2022年10月28日（金）の#1000で完結予定。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: これも重要なお報告です。2014年からThe BBBのFacebookで連載してきた「モモの世界遺産旅行記」と「モモ旅」というシリーズがあります。これは、右下に写っている柴犬のモモという実在の犬が日本の世界遺産を周る、という連載なんです。そのeBookもけっこう評判が良いのですが、世界遺産を順番に周ってきたところ、ついに、すべて周り終えてしまうということで、間もなく、来週か再来週に連載が休止予定です。どうして（完結ではなく）「休止」と言うと、世界遺産というのは今後も増えるんです。世界遺産コンプリートでいったん休止しますが、日本の世界遺産が増えたらまた周ります、という意味で「休止」としています。

また、その下、2013年から毎週月曜と金曜にThe BBBの公式ウェブサイトの英語版トップページで掲載してきた、Semiweekly-Pedia of Japanという連載がありまして。これは日本の見どころですね。日本について海外の方に紹介したい話題を、毎回ひとつ決めて、月曜と金曜に写真つきで英語で紹介するという連載を、実はこれまで英語版トップページで、ずっと続けてきたんです。それは、2022年10月28日の#1000で完結予定です。これは、だいぶもう日本のことを紹介し尽くしたということもありますし、実は、けっこうスタッフに負担がかかっていました。まず、僕がテーマを決めて英文を書いて、エージェント工刀（くぬぎ）さんがその英文を校正して、ターニャが写真を探して、K.G.さんがそれをシステムに組み込むという、けっこう複雑なことを実は毎週やっています。僕が書き続けるのはけっこう楽しいのですが、スタッフにずっとやってもらうのも大変だし、やめるとすれば#1000しかないな、と思いついて。#1000でやめるか、ずっと続けるか、ですから。これはスタッフの負担を考えて、#1000で終わらせていただこう、と思いついて。なので、まだ1年近くは続くのですが、一応、#1000で

完結予定です、という、重要なお報告でした。Opening でのお話がもうひとつだけあるので、スライドの次のページをお願いします。

The BBB 10周年の2022年は、重要作品が目白押し！

- ・ 2022年1月前半
清涼院流水「SUMITADA Vol. 3」
- ・ 2022年1月末
秋月涼介「The Gifted Vol. 9」
- ・ 2022年2月末
森博嗣「Sky Eclipse: Episodes 7-8」
森博嗣「Sky Eclipse」完全版（※シリーズ完結）
- ・ 2022年3月末
積木鏡介「都市伝説刑事 事件6」 （※シリーズ完結）

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: これが Opening の最後の話です。The BBB の 10 周年、来年 2022 年は重要作品が目白押し！ で、最初に出るのが僕の……清涼院流水の歴史小説「純忠 SUMITADA」の英語版です。これは自作を重要作品と言っているわけじゃなくて。僕は悪い癖があって、ほかの作家さんの作品の英訳ばかりしていて、自分の作品をぜんぜん英訳していません（苦笑）。さすがにそろそろ英訳しないと、この「SUMITADA」が永遠に完結しないということで、むりやり予定に入れさせていただいています。

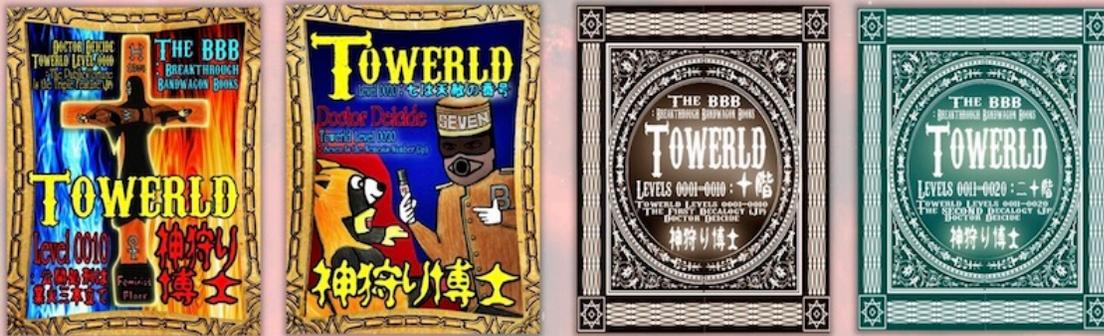
もう来月ですが、2022年1月、秋月涼介（あきづき・りょうすけ）さんの「The Gifted Vol. 9」。2月末には森博嗣（もり・ひろし）さんの「Sky Eclipse」。これは「The Sky Crawlers」シリーズの完結編となります。そして、3月末には積木鏡介（つみき・きょうすけ）さんの「都市伝説刑事 事件6」。これもシリーズ完結作品です。森さんと積木さんはシリーズ完結作ですし、秋月さんも、あとで話が出ますが、かなり重要な局面なので。非常に重要な作品が連続する、これからの3か月、ということになります。そして、お話ししたかったのは、去年の「Cast Party」でも実はお話ししているのですが、この「The Gifted Vol. 9」と「都市伝説刑事 事件6」というのは、去年のキャスパ（Cast Party 2020）の直前にいただいたお原稿なんです。僕は去年のキャスパでも読み終えていて、感想もお話ししたりしました。日本人の読者からすると、「なぜまだ刊行されていないの？」と思われると思いますが、The BBB の活動というのは一応、英語版を発表するのがメインなんです。なので、まず英訳する順番を待つということで、申し訳ないことに1年間かかってしまいました。もう少しで出ます、というところま

で、ようやく辿り着いています。英語プロジェクトなので英語版を先に出したいというほかにも理由があって、僕が英訳させていただいているのですが、英訳すると、日本語版の問題点とか矛盾点に非常に気づきやすいんです。ですから、日本語版の精度を高めるためにも、まず英語版を出すというのが作品にとって非常に良いことだと思っているので。やはり、英語版から出したいと思っています。ですから、日本語版の読者で楽しみにしてくださっている方も多いと思うのですが、もう少しだけお待ちいただければと思います。本当に申し訳ないです。これは秋月さんと積木さんにも、毎回、謝り倒しているのですが。もう少しお待ちください、という話でした。というところで Opening が終わりましたので、では、ターニャ、次のページを、お願いします。

2. エージェント工刀さん (The BBB 校正責任者)

エージェント工刀 (くぬぎ)

アメリカの名門大学を卒業し、
大学院で物理学の修士号を取得したバイリンガル。
謎の著者「神狩り博士」から『Towerld (タワールド)』の原稿を
託され、2013年にエージェントとしてThe BBBに加入。
以後、The BBBの校正責任者を務める。



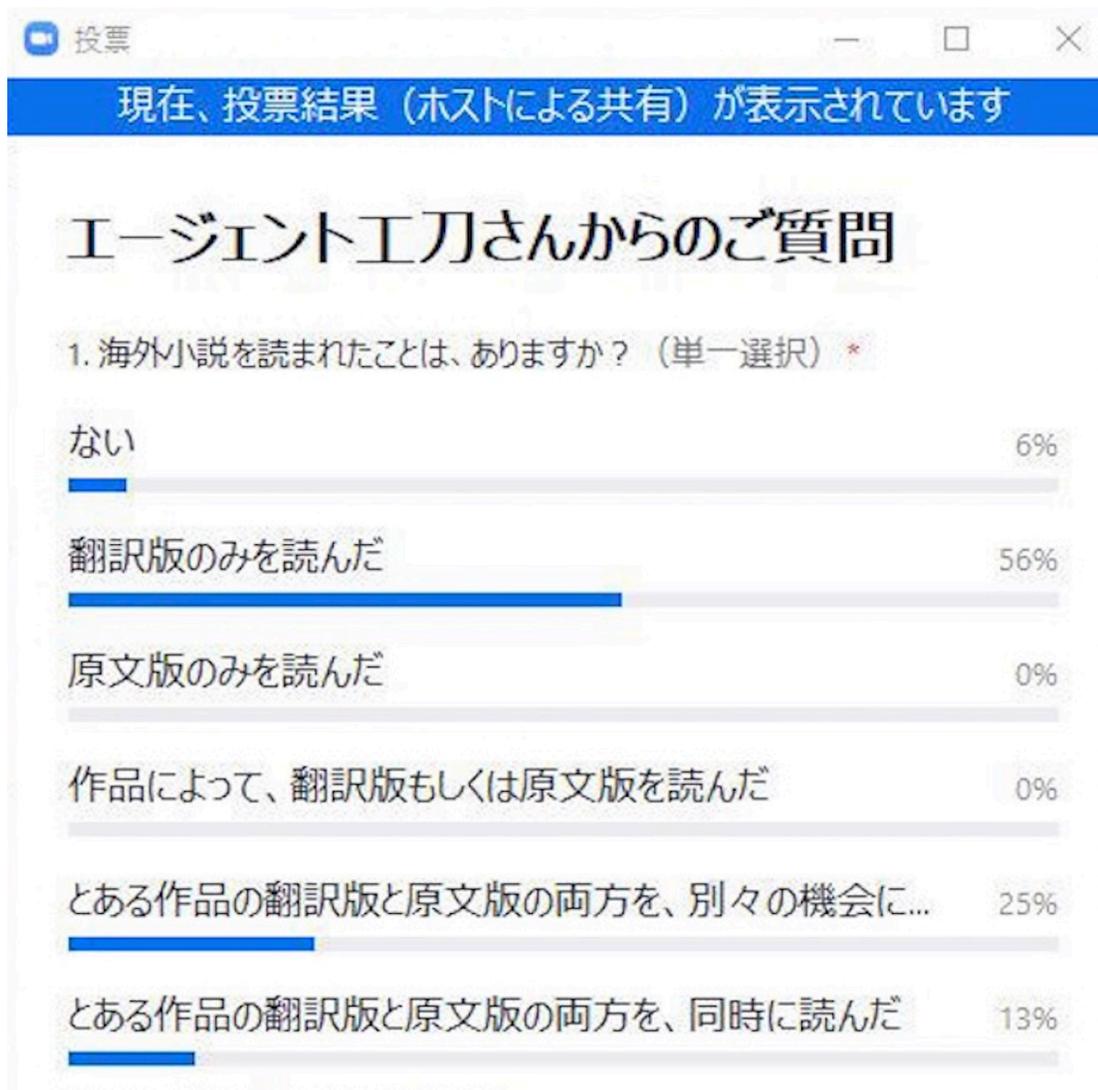
The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: エージェント工刀 (くぬぎ) さんは、アメリカの名門大学を卒業し、大学院で物理学の修士号を取得したバイリンガルです。国籍は日本なのですが、幼い頃から世界中を転々とされていて、大学と大学院はアメリカで通われました。だから英語はペラペラで、もちろん日本語もできる方です。「神狩り博士」という謎の著者から『Towerld (タワールド)』という原稿を工刀さんが託されて、それをThe BBBに持ち込んでくださったのです。エージェント工刀さんはバイリンガルですが、神狩り博士もバイリンガルで、日本語と英語で小説を書いてくださっているんです。2013年以後は、工刀さんはThe BBBの英文校正責任者も務めてくださっています。そして、画面の下に並んでいるのが、工刀さんがエージェント (代理人) として管理しておられる『Towerld』の表紙です。左下にあるのは、10作目で十字架がインパクトのある表紙です。これがLevel 0010と呼んでいる10巻でした。その右にあるのが、Level 0020、20巻です。その右に「十階」という日本語タイトルが見えています。『Towerld』では要するに、フロアを1階ずつ上がっていくのですが、「十階」、つまり10巻に到達した時点で、1巻から10巻までを1冊にまとめた、これは合本です。英語ではThe First Decalogyというタイトルになっています。右下にあるのは、20巻まで到達したので、11巻から20巻までをまとめた2冊目の合本です。「二十階」というユニークなタイトルがついています。

今日、実は、出演者の方から参加者の方へのご質問を、預かっています。これはZoomの投票機能を使って、お答えいただきます。なので、皆さん全員に参加していただけます。ターニャ、では、このタイミングで、工刀さんからのご質問を表示していただけますか。

※「エージェント工刀さんからのご質問」が Zoom の画面に表示され、参加者が投票。

※この投票画面と結果画面は、Zoom のシステムの関係から、YouTube 動画には記録されておりません。



清涼院: 工刀さん、どうでしょう？ 結果は、ご覧いただいていますか？

エージェント工刀 (以下、工刀) : はい。うーん。「翻訳版のみ」が、いちばん多いですね。

清涼院: それをやっぱり、いちばん多いでしょうね。

工刀: まあ、「原文版のみ」というのは、さすがにないですかね。「翻訳版と原文版の両方を別々の機会に」が多くて、いちばん最後の「同時に読んだ」というのもありますね。

清涼院: あ、そうか。いや、僕はね、英語版だけで読むことはあるんです。でも、同時に読むことが多いので、ついそっちを選んじゃいました。

工刀: あー、なるほど。

清涼院: そういうケースもあると思います。だから、英語版だけ読んだことがあっても、下のほうに該当するものがあったので、そっちに投票しちゃいました、僕は。複数該当しちゃったというか。

工刀: それもありかなと思います (笑)。

清涼院: 投票結果は閉じてもらって大丈夫です。どうしてこの投票をしたかと言いますと、画面に出ている『Towerld』の合本の話在先ほどしましたよね。「十階」「二十階」と10冊ずつまとめた合本が並んでいまして、英語タイトルは、The First Decalogy、The Second Decalogy となります。この decalogy というのは造語なんです。著者・神狩り博士の造語じゃなくて、昔のキャспаで話題に出たことがあるのですが、decalogy というのは、L・ロン・ハバードというSF作家と呼んでいいんですかね……伝説の作家さんがいて、そのカリスマ作家がつくった用語なんです。十部作をまとめたものが decalogy という理解で良いかと思います。『Towerld』という作品については、過去のキャспаでいろんな角度から語ってきたのですが、decalogy のつながりで、もしかして、L・ロン・ハバードという伝説的なSF作家がかなりインスピレーションの源になっているんじゃないかなと思いました。今年は趣向を変えて、L・ロン・ハバードという作家に焦点を当ててみたいと思います。次の画面をお願いします。

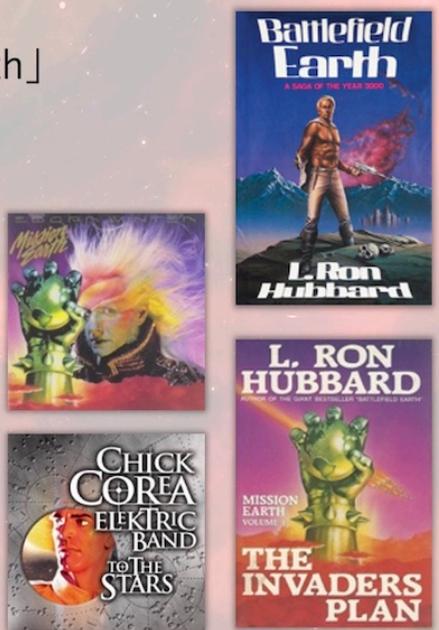
エージェント工刀 (くぬぎ)

L. Ron Hubbard 著 「Battlefield Earth」

L. Ron Hubbard 著 「Mission Earth」

「Mission Earth Soundtrack」
作詞・作曲 L. Ron Hubbard
編曲・演奏 Edgar Winter

「To the Stars」
作曲・編曲・演奏 Chick Corea



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

工刀: そうですね。ひとつひとつ説明するより、私自身の経験と重ねて、順番に説明したほうがわかりやすいかなと思います。

清涼院: お願いします。

工刀: プロファイルに書いてあります通り、私は海外での生活が 20 年間で、そのうち 11 年間はアメリカで過ごしてきました。で、高校と大学と大学院を現地のアメリカの学校で過ごし、最初は英語ができなかったので必死で勉強したのですが、いろんな方法を採用しました。そのうちのひとつとして、とにかく英語の本を読むことに力を入れました。

清涼院: 英語学習として英語の本を読まれた、ということですか？

工刀: まあ、そうですね。もちろん、SFに興味があったこともありますが、とにかく英語に慣れないと話にならないので。ですから、高校の夏休みの時に最初に手に取った本が、この映像にも右上に出ている L・ロン・ハバードの『バトルフィールド・アース』という小説です。ストーリーを簡単に説明しますと、舞台は西暦 3000 年。で、西暦 2000 年頃に宇宙人、まあ侵略者がやって来て、地球の軍隊をたった 9 分で滅ぼした、という。

清涼院: ええーっ!? (笑)

工刀: そんな途轍（とてつ）もない奴らなんですけれども、それから 1000 年後に、表紙に描かれている主人公が、上半身裸でマントをきちっと背負っている謎ファッションで。まあ、それは置いて。この青年が反乱軍のリーダーとして立ち上がって、侵略者を相手に戦って、人類と地球を取り戻すという内容です。簡単に説明すると、そうなります。

清涼院: それは勉強として、ちゃんと読めたんですか？

工刀: これが英語で初めて読破した小説で、苦労しましたが、なんとか読破しました。Wikipedia では英語のページしかないのですが、最近、あらすじを読んで、あー、当時の自分は何もわかっていなかったんだと反省しております。まあ、当時の私の英語力は、その程度でしたので。でも読破はしました。それが高校生の夏休みの時の読書体験で、ちょっとまずかったのが、画面で右下にあります『ミッション・アース』という先ほど流水さんが紹介された decalogy (十部作) の、この表紙が第 1 巻です。『インベーダーズ・プラン』というタイトルで。当時の私は大学生で、大学は名門とされるカーネギー・メロン大学で、当時の私は、そこで実はトップ争いをしていたほど成績が良かったんです。

清涼院: それは、すごいじゃないですか！

工刀: 当時の私はエリートと言われていました。全米、全世界から集まってきた地元の神童や天才たちをも蹴散らしていましたからね。レベルが違いますよ。私の自慢話はいいんですけれども。いつだったか思い出せないのですが、期末テストに向けて勉強している途中で、息抜きに本を読むことにしたんですよ。ちょっとだけ。その時に、通信販売で冗談半分で買ったのが、L・ロン・ハバードのこの『ミッション・アース』10 冊です。で、この第 1 巻の『インベーダーズ・プラン』という、手がガッシリと地球を握っているグラフィックですけれども。

清涼院: いきなり 10 冊、買われたんですか？

工刀: はい。いっぺんに 10 冊、買いました。

清涼院: じゃあ、合本じゃないとしても、decalogy が 10 冊セットで売っていたんですね？

工刀: そうですね。10 冊セットで買いました。そのほうが安かったの。

清涼院: あー、なるほど。

工刀: それが今となっては失敗だったのかもしれませんがけれども。試験勉強をされていて、陽（ひ）が沈んだので息抜きにと思って、この本を手にとって読みました。そして、顔をパッと上げると、さっき陽が沈んだはずなのに、また外が明るいですよ。で、その時に私は思いましたよ。勉強のしすぎで自分は超天才になって時間の流れを逆転できるほどに神の領域に達したんじゃないかと思ったんですよ！

清涼院: ははは（笑）

工刀: うーん、ところが……よく聞いてみますと、小鳥のさえずりが聞こえるんですよ。チュンチュンチュンと。まずい……これ、朝じゃん！と。これが私の大学時代の「朝チュン体験」というんですかね。朝チュンの意味が違いますけれども。で、実は、息抜きにと思って、本を開いてみたら、夜が明けるまで没頭しちゃったんですよ。そのくらい、私は、この作品にハマってしまいました。その調子で試験勉強どころじゃなくなって。で、結局、10冊読んでいるあいだに試験が終わってしまって。それまではトップ争いだったんですが、その時からビリ争いに参加するようになっちゃって……。

清涼院: そんなに変わったんですか？（笑）トップからビリは、すごいですね。

工刀: いやもう、ちょっとした違いなので、トップからビリになっちゃうんですよ。

清涼院: あー、なるほど。

工刀: で、その時から私の転落人生が始まっていて。いろんなことがありまして、現在に至る、という感じです。

清涼院: じゃあ、これはめちゃめちゃ重要な、人生を変えた作品ですね。良くも悪くも。

工刀: はは、本当に「良くも悪くも」ですよ。

清涼院: でも、その「本を読んでもうちに朝になる」というのは、今日のキャスパ参加者の方も体験したことがあるかもしれないですし、僕も経験があります。そういうのは、ある意味、いちばんしあわせですよ。読書人生としては。

工刀: それは読者にとって、しあわせなんですか？ それとも、著者にとって、しあわせなんですか？

清涼院: 成績に影響あったとしても……。

工刀: うーん、まあそうですね。作品としては、それ以上のホメ言葉はないかもしれませんがね。確かに。内容は、簡単に言いますと、これも侵略者が人類を徐々に侵略していて。一気に軍事力で支配するんじゃなくて、少しずつ人類社会に入り込んで。なぜか知らないんですが、この作品での宇宙人は、名前はここでは言えないのですが、人類と同じようなDNAの持ち主で。たとえば、子孫を残すことができるんですよ、人類とその宇宙人のあいだで。それをくり返していくうちに、この人類を宇宙人と同じ種族に変えよう、という壮大な試みがありました。

清涼院: 工刀さん、すみません。そこで15分経過しましたので。あと5分しかありません。

工刀: うそお！……もう!?（驚）

清涼院: 時間の経過は速いですよ。

工刀: 速いね。

清涼院: 夢中になっていると、けっこう速いですから、巻きぎみに。まだ、画像があとふたつありますからね。5分で、お願いします。

工刀: わかりました。じゃあ、内容はこれくらいにしておいて、まあ、そういう作品です。この通り、私の人生を良くも悪くも変えてしまうほどの「悪魔の書」を書いたL・ロン・ハバードなんですけれども、実は、評論家先生方からの評価は低いです。Wikipediaの英語ページで見ましても、L・ロン・ハバードは本当にボロカスに叩かれていますので。レジェンドかと聞かれると、そうではないとは言い切れません。

清涼院: 僕は知らなかったのですが、有名な話として、L・ロン・ハバードのこの小説を元にして宗教のようなものも生まれているんですよね？ そのくらいの影響力はある、というか。そういうところでも、もしかしたら叩かれているんですかね？

工刀: 宗教がらみで、けっこう叩かれています。

清涼院: トム・クルーズがその宗教に入っているとか。ジョン・トラボルタもですか？

工刀: そうですね。彼らは「サイエントロジー」の信者です。

清涼院: 「サイエントロジー」という名前を聞いたことはあったのですが、その団体は、この作家の小説から生まれている、ということですか？

工刀: どうなんでしょう。どっちが先かわからないです、実は。情報が曖昧で。

清涼院: 僕は詳しくは知りませんが、すごい話だと思いました。小説からそういうムーヴメントが起きる、というのは。ある意味すごいなど。

工刀: そうですよね。彼、L・ロン・ハバードの小説家としての能力はともかく、音楽のほうでも、いろいろと……。

清涼院: 画面に出ていますね。あと3分くらいなんですけど。

工刀: えっ、うそお!?

清涼院: 手短かに、お願いします。

工刀: はい、手短かに。この『バトルフィールド・アース』については、ジョン・トラボルタ主演で、西暦2000年に映画化されています。紆余曲折あって、なんとか完成した映画なんですけど、評価は低いです。西暦2000年から2009年までの10年間で最低の映画だと評されています。原作を読んだあとにあの映画を観ちゃうと、ガッカリします。それは非常に残念な話でしたけれども。

清涼院: で、『ミッション・アース』のサウンドトラックが出ているんですよね？

工刀: あ、そうですね。エドガー・ウィンターの曲の名前を思い出せないんですが。

清涼院: 作曲もL・ロン・ハバードがしているんですか？

工刀: はい。作詞と作曲は両方ともL・ロン・ハバードです。で、編曲と演奏がエドガー・ウィンターです。エドガー・ウィンターといえば、『フランケンシュタイン』という名前の曲で1位になっています。50年くらい前に。

清涼院: あ、そうでしたか。

工刀: このサウンドトラックを私は持ってましたけれども、いろんなヴァリエティに富んでいて、ひとことで言いますと、オススメです。あと、音楽といえば、チック・コリアを皆さん、ご存じだと思います。

清涼院: チック・コリアは有名ですよ。ジャズ・ピアニストの。

工刀: はい。今年、帰らぬ人となりましたけれども、チック・コリアが熱烈なL・ロン・ハバードのファンで。L・ロン・ハバードが書いた「トゥ・ザ・スターズ」という小説の大ファンで、何十回も読み直していたそうです。で、そのサウンドトラックを彼が作成しました。画面の左下ですね。

清涼院: チック・コリアと書かれていますね。

工刀: 私も、この通り持っています（画面にCDを見せる工刀氏）。

清涼院: おー、すごい。チック・コリアが出しているのは、すごいですね。

工刀: そうですね。チック・コリアほどのビッグネームが出していて。彼が作曲して、彼がリードするエレクトリック・バンドが演奏しています。私はこの小説は読んだことがないのですが、CDはオススメです。小説のほうは、かなりボロカスに叩かれています。

清涼院: 工刀さん、そろそろ20分経過しますので、最後になにかあれば。

工刀: えっとですね。この通りL・ロン・ハバードという作家は、そんなに評価の高い人ではないのですけれども、いろんな業界のいろんな大物たちに多大なる影響を及ぼしている、ということは見逃せないと思います。そういった意味で私は、L・ロン・ハバードは影響力ということに関しては、偉大な作家であり、偉大なクリエイターですね、作曲も含めた。私は、そのように感じております。

清涼院: ありがとうございます。そういう意味では『Towerld』の超絶の世界観と共通点があるような気がしました。今日はお話しただけで、僕は『Towerld』ファンとしても参考になりました。貴重なお話、ありがとうございました。

工刀: ありがとうございました。

清涼院: では、ターニャ、スライドの次のページを、お願いします。

3. 坂嶋竜さん（評論家）

本日の予定

1. Opening
～清涼院流水（The BBB 編集長）ご挨拶
2. エージェント工刀さん（The BBB 校正責任者）
3. 坂嶋竜さん（評論家）
4. 秋月涼介さん（作家）
5. 真山知幸さん（偉人本&名言本 著者）
6. 蘇部健一さん（作家）
7. 藤枝暁生さん（酒場本&英語本 著者）
8. 積木鏡介さん（作家）
9. The BBB 10周年記念プロジェクト 発表
10. Q&Aセッション（延長の可能性あり）～Ending

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 今日はこのように、どこまでイベントが進んでいるかを示す意味で、「本日の予定」をコーナーごとに表示するようにしています。次は、坂嶋竜（さかしま・りゅう）さんのコーナーですね。坂嶋さん、準備は大丈夫ですか？

坂嶋竜（以下、坂嶋）: 大丈夫です。

清涼院: では、スライドの次のページを、お願いします。

坂嶋竜 (さかしま・りゅう)

2016年、福山ミステリー文学新人賞で最終候補になる。

2018年、メフィスト賞に内定するも、
担当者の異動により取り消し。

2019年、メフィスト評論賞 法月賞 受賞！



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院:「坂嶋竜さん。2016年、福山ミステリー文学新人賞で最終候補になる。2018年、メフィスト賞に内定するも、担当者の異動により取り消し。」これはショッキングなんですけれど、去年のキャスパ (Cast Party 2020) でくわしくお話ししていますので、ご興味のある方は、去年のeBook「Cast Party 2020」をご参照ください。そして、「2019年、メフィスト評論賞 法月賞 受賞！」そして、ここには書いていない重要な話として、坂嶋さんは去年まで何度かCast Partyにゲストとして参加していただきました。今年から正式にThe BBBキャストに加わっていただきました。ありがとうございます。

坂嶋: こちらこそ、ありがとうございます。

清涼院: ようこそThe BBBへ！坂嶋さんは評論家として活動されつつ、作家志望でもあるので。作家デビューされた時にThe BBBキャストに加入していただくのが良いのかな、とも思いつつ、もう評論家としての活動があまりにも目ざましく、目をみはるものがあったので、これはもう(作家デビューを)待たなくても良いんじゃないかと。それで、The BBBキャストになっていただけませんかと打診したところ、快くお引き受けいただいて、本当に僕としても嬉しかったんです。で、坂嶋さんと僕は記念日マニアと言いますか、お互いの誕生日だけでなく、何かの記念日をすごく重視しています。ところが、実は、去年、僕と坂嶋さんが出会って20周年だったんですが、この記念日好きのふたりが忘れていた、ということがありましたよね、坂嶋さん？(笑)

坂嶋: そうですね。すっかり忘れてて(笑)。

清涼院: 僕もですけど、なぜ坂嶋さんがそれを忘れていたんだろう、と。

坂嶋: 1年ずれておぼえていて……。

清涼院: あー、そうかそうか。僕も、たぶん、そうでした。

坂嶋: 2021年（が20周年）だと思っていたような気がして（笑）。

清涼院: 今日の参加者の中で、本当にいちばん古くから僕が接点があるのは、積木さんと年賀状のやりとりを始めたのが1999年からなので、めちゃめちゃ早いんですが、リアルで会った人の中で、いちばん古いのは、実は、坂嶋さんなんです。そういう意味では、今年は21年目ですけど、こうしてイベントで共演できるというのは、本当に感慨深いことなんですけれども。坂嶋さんの今年の活動としては、画面の下に3枚、画像があります。坂嶋さん、それぞれ簡単に教えていただけますか。

坂嶋: そうですね。まず、去年のキャスパの時から「横丁カフェ」という月間の書評を半分くらいまで進めていて。そのあと、今年の6月くらいに『10代のための読書地図』という、これはオススメ本のアンケートに答えただけなのですが。

清涼院: あ、そうなんですか。

坂嶋: 1ページくらいなので、そんなに大した量じゃないんですけど。

清涼院: でも、この本はテレビで紹介された、みたいなお話もされていましたよね。

坂嶋: この本に参加している人が、その番組で本を紹介しているという縁で、朝のテレビ番組で紹介されたらしくて。けっこう反響が良かったらしく、版も3刷か4刷くらいまでいってるはずですね。

清涼院: それはすごいですね。やっぱりニーズがある、ということでしょうね。

坂嶋: そうですね。若い人向け、ということで。

清涼院: 10代も、やはり必要としているということですね。読書の指標を。

坂嶋: 画面右下の「本の雑誌」を見ればわかるんですが、いつもは、わりと年齢が高めの方をターゲットにしているらしくて。今回初めて10代向けのものをつくってみよう、ということで。

清涼院: そこは意外性がありますよね。読者層のターゲットは、どんどん上に上にいっている印象がありましたので。下にいくというのは、斬新な逆張りと言いますか。

坂嶋: うん、そうですね。

清涼院: で、画面右下の「本の雑誌」ですよ。

坂嶋: これがまあ、今年いちばんがんばった原稿なんです。「本の雑誌」の巻末に毎回、ある作家を取り上げて、オススメ10冊を紹介する記事が載っているんです。それで、僕は、法月綸太郎（のりづき・りんたろう）さんの作品から選びました。それが「本の雑誌」2022年8月号に載っています。

清涼院: いやー、これは僕も、ちょっと感動しましたね。というのは、ご存じの方もいらっしゃるかもしれないですけど、僕は京都大学ミステリー（推理小説）研究会の出身で、ミステリー作家としてデビューしました。「ミス研」と呼ばれますけれど、ミス研に在籍中に、法月

さんは先輩にあたる方で。年齢は僕より10歳上の方で、法月さんはOBなのですが、頻繁にミス研の部室に遊びに来ていて。実は、僕の大学時代は毎日のように法月さんに会っていて、飲み会も、しょっちゅうして。いちばん創作談義をさせていただいた先輩で、恩義も感じていますし。一方で、坂嶋さんのことは20年前から知っていて、その坂嶋さんが法月賞を受賞されて、なおかつ法月綸太郎さんのことを書くというのは、本当にすごいご縁だなと。個人的に、ものすごく感動してしまったのですけれど。あと、ミステリー作家としては綾辻行人（あやつじ・ゆきと）さんと法月綸太郎さんが両巨頭と言えらると思いますが、坂嶋さんは元々は綾辻さん寄りと言ってもいいんですかね。綾辻さんの大ファンじゃないですか。

坂嶋: 綾辻さんの大ファンです。

清涼院: その坂嶋さんが法月賞を受賞されて、法月さんの評論とかセレクトを書くのは面白いなと思いました。

坂嶋: そうですね。実際には、何人か書きたい作家さんの候補を挙げたら、編集者のほうでいちばん受けが良かったのが法月さんだったので、法月さんにした経緯があります。やっぱり、綾辻さんもそうですけど、法月さんの本は中高生の頃に読んだので、法月さんの作品の良さをあまりわかっていなかったな、というのが今回いちばん感じたことですね。

清涼院: そうそう、坂嶋さんとはちょっとお話ししましたが、僕も学生時代に法月さんの作品を読んでいて。自分が年をとるにつれて読み返したくなってくるのが法月さんの作品なんです。あれは、実はものすごく深かったんじゃないか、というのを、自分が経験を積み積むほど感じていたので。そういう話を坂嶋さんとできて、すごく共感できました。

坂嶋: 若い頃は、もっとビックリするとか、すごいトリックがある作品に惹かれるんですけど、法月さんは、そういう部分ではないところで面白く見せているので。今回、ひと月半くらいかけて全作品を読み返して。

清涼院: それは、しあわせな時間ですよ。それだけ短い期間にひとりの作家の全作品を読み返すというのは、なかなかないでしょうから。

坂嶋: 流水さんの（2016年の20周年）インタビューの前に全作品を読み返したくらいです。

清涼院: そうなのが、いちばんしあわせだと思いますよ。目的意識を持って全作品を読み返すというのは、読者として、すごくしあわせなことだろうなと。うらやましいくらいです。

坂嶋竜 (さかしま・りゅう)

◆坂嶋竜さんが「横丁カフェ」で書評を書いた12冊



- ・ 5月 夕木春央『絞首商會』
- ・ 6月 北山猛邦『ダンガンロンパ霧切7』
- ・ 7月 芳崎せいむ『金魚屋古書店17』
- ・ 8月 山田正紀『神狩り』
- ・ 9月 大山誠一郎『ワトソンカ』
- ・ 10月 綾辻行人『Another2001』
- ・ 11月 陳浩基『網内人』
- ・ 12月 エラリー・クイーン『Zの悲劇』
- ・ 1月 つるまいかだ『メダリスト1』
- ・ 2月 円城塔『文字渦』
- ・ 3月 米澤穂信『王とサーカス』
- ・ 4月 清涼院流水『ジョーカー』



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: で、これは坂嶋さんが去年から今年にかけて書評を書かれた「横丁カフェ」の12冊ですね。坂嶋さんは、これは、いろいろ思入れがあるんじゃないですか。僕の『ジョーカー』も入れていただいて、ありがとうございます。しかも、最後に。

坂嶋: そこもかなり、いろいろ紆余曲折があって『ジョーカー』になったんです。まず先に、この12冊に隠された意図があったんです。

清涼院: そんな意図があったんですか!?(驚)

坂嶋: あったんですけれど、誰も言ってくれないんで(笑)。

清涼院: いや、わからないですよ。このリストを見ても。

坂嶋: この場で言おうと思うんですが、12冊のうち、前半の6冊と後半の6冊を対(つい)にしてみたんです。

清涼院: 対になってるんですか……?

坂嶋: 一応。たとえば、5月と11月はノン・シリーズ作品とか。6月と12月はシリーズもの。7月と1月はマンガ作品。8月と2月はSF。9月と3月は特殊な設定の謎解き。で、10月と4月は、まあ、好きな作家ということで。

清涼院: ははは。でも、それは坂嶋さんしかわからないんじゃないですか?(笑)

坂嶋: そうですねえ（笑）。だから配置は順番通り考えていたんです。そもそも話を受けた時点で、3月はやっぱり震災について絡めようとか、あと、最初のイメージだと、最後は法月さんで締めようと思っていたんです。綾辻さんの新刊がうまく折り返しにかぶった時も、綾辻さんが真ん中で法月さんがラストでいいんじゃないかと思っていたんですけど、実際そのあと書いていって、3月を書き終わるくらいに、このまま法月さんでいいのか、という疑問が出てきてまして。この流れの中で、法月さんの新刊も文庫化があったくらいで特になかったし、改めて考え直したら、今いちばん書いてみたいのはなんだろう、という時に、『ジョーカー』が出てきたんですね。

清涼院: いや、本当にありがたいお話で。本来なら、それこそ法月さんが最後という予定だったということ。それから『ジョーカー』に変更していただけたのは、ありがたいです。坂嶋さんは昔から『ジョーカー』が好きだと、おっしゃってましたね。そういう意味でも、ありがたかったです。

坂嶋: ただ、まあ、ここで法月さんを選ばなかったからこそ、先ほどの「本の雑誌」の「この10冊」企画が出てきたんじゃないかなど。あと、元々この企画は、書店員が売っている本を勧めるという感じなので、基本、絶版の本は依頼の時点ではダメだったんです。『ジョーカー』で書きたいんですけど、電子書籍でしかないんですけどいいですかと聞いたら、編集者の方もOKを出してくれて。

清涼院: それは嬉しいですね。

坂嶋: 助かりました。「書きたいものを書いてください」と言われたので。ということで、『ジョーカー』になりました。

清涼院: それ以外に、この「横丁カフェ」の秘話はあるのですか？

坂嶋: 細かいところでは、いろいろあるんですが、思い入れ深いのは、北山さんの『ダンガンロンパ』がゲームの番外編なので。元々、北山さんのファンで読んでいるファン層と、ゲームが好きでゲームをやっていて、そのスピンオフとして読んでいる、ふだんはミステリーを讀んでいないけれどゲームが好きなので読んでみた、という層があって。その両方に届くようにうまく思いついたのが、その原稿で。ミステリーは読んでないけれどゲーム好きな人たちにけっこう反応してもらえて嬉しかったですね。

清涼院: やっぱり、そういうのは、あるんですね。このあとの話に続けるために、今後のご予定について伺いたいところなんですけれど。差し支えない範囲で。

坂嶋: 最近はずっと、ある評論を書いていまして。あまりくわしく話せないのですが、そのうち、とある時期に、とある出版社から出る本に、僕の書いたものが載ることになっていまして。最悪、ボツも覚悟していたんですが、たぶん大丈夫だろう、ということで、ほぼ決定しているものですね。

清涼院: それは気になりますね。

坂嶋: ルー・チウチャー……日本語で言うと陸秋槎（りく・しゅうさ）という中国出身のミステリー作家がいて、その人について書いた評論なんですけれど。

清涼院: ここで、ターニャ、坂嶋さんからの質問をここでお願いします。

坂嶋竜さんからのご質問

1. 陸秋槎（りく・しゅうさ）という作家について、お聞きします。（単一選択）*



清涼院: 「名前も作品も知らない」……「名前を聞いたことがある」……

坂嶋: すいません。「雑誌の短編までチェックしている」は自分です。

清涼院: あー、そうですか（笑）。正直、そんなに知られていない、という印象がありますね。

坂嶋: まだ4冊しか出ていないですし。あと短編が5、6作なので。ただ、出たものに関しては、今のところ、たとえば、「本格ミステリベスト10」に必ずベスト5には入っているのかな。

清涼院: それは、かなりすごいですね。

坂嶋: なので、期待の新人という感じなのですけれど。

清涼院: 今ちょうど15分経過なので、あと5分あります。どうして、その陸秋槎さんを選ばれようと思ったのですか？ もちろん、評価が高いというのは当然あったと思いますが。

坂嶋: ほかにも、いろいろ選択肢はあったんですが、結局、いちばん書評を書きたいと思った作家さんが、最終的には陸さんだったんです。今度の原稿に書きましたけれど、とにかく日本の新本格ミステリーを読んで育った中国の方で、読めば確実に、「ああ、あの人の影響だな」というのがわかるような感じなんです。

清涼院: そういう時代になっているんですね。

坂嶋: で、特に、ここにある『文学少女対数学少女』という作品は、麻耶雄嵩（まや・ゆたか）さんのメルカトル鮎（あゆ）シリーズに近いような、けっこうミステリーの形式を壊しかねない、かなり尖った短編集で。その尖っているところが、僕がいちばん魅力に感じた部分なので、書評を面白く書けるんじゃないかと思って選びました。

清涼院: なるほど。それと、坂嶋さんと僕が出会って去年 20 周年だったこと以外に、重要な秘話を披露してくださるはずが、それもうっかり忘れてしまったということがありました。今年はずれずに、最後にそれを披露していただけますか。

坂嶋: 去年のキャスパで話す予定だったこととして、僕のメフィスト評論賞法月賞の作品が載った「メフィスト」誌は、おとし（2019年）の12月に発売されたのですが、感想が気になるので、発売日にずっとツイッターを検索していたんです。

清涼院: メフィスト評論賞受賞作の反応を検索していた、ということですか？

坂嶋: はい。そうしたら、日付が変わって、最初は「買いました」とか、あと麻耶雄嵩ファンが「読みました」という感想しかなかったんです。翌日、起きて、お昼過ぎにようやく「評論を読んだ」という感想がツイッターに現れて。ただ、驚いたのが、それが中国語だったんですね。

清涼院: 中国語だったんですか！ 中国のツイッターみたいな？

坂嶋: 中国の方が、日本語で読んで、中国語でつぶやかかれていて。日本の人でも、まずは小説を読んで評論は最後、という感じになると思うんです。まさか、中国の方が最初に読んで、感想を出してくれるとは……。

清涼院: それは、すごい時代ですね……。昔からは考えられないですね。

坂嶋: その人の感想は、僕の原稿については、けっこう好意的に書いてくれていたんですけど、ただ、ひとつだけダメなところを指摘していて。それが、「秋月涼介（あきづき・りょうすけ）のルビを評論で採り上げていないのはダメだ！」と書かれていて（笑）。

清涼院: ははは（笑）。つまり、坂嶋さんの評論は、ルビの使い方に触れられていて。僕の作品も採り上げてくださっていて。ルビの使い方にこだわりある作家を評論されていて、その中国の方は、「秋月涼介をルビで語らないのは、おかしい」、と。つまり、その方は、秋月作品を好きだということですね？

坂嶋: そういうことですね。

清涼院: しかも、それで怒っていると。「秋月作品を採り上げないのは何事だ」と、中国の方が怒っていたという。それは、めちゃめちゃすごい話じゃないですか！（笑）

坂嶋: いや、だからもう、忘れられないですね。それだけ中国ではミステリーとかメフィスト賞が浸透しているんだな、と。

清涼院: しかも、これはヤラセじゃないですけど、次に登場されるのが秋月さんなので、ちょうどいい流れなんですけど（笑）。本当に良いフリをしていただいたな、と言いますか。坂嶋さん、あと1分で終わりですけど、何か言いたいことがあれば。

坂嶋: まあ、とりあえず、来年か、そのうちどこかで、陸さんの書評が出ると思うので。

清涼院: それは楽しみです。

坂嶋: あ、そうだそうだ。しかも、その本には僕以外にも、メフィスト評論賞を獲った琳（りん）さんと、同じく円堂賞を獲った孔田多紀（あなた・たき）さんも参加していますので。

清涼院: 同時に受賞された方たちが皆さん参加されて、それは楽しみです。

坂嶋: 勢揃いなので、楽しみにしてもらえればと。

清涼院: じゃあ、来年もしキャスパがあれば、もしかしたら、そこでご紹介いただけるかもしれないですね。

坂嶋: その時には話せるといいなあ、と思います。

清涼院: 1年あると、なにがあるかわからないですけど、それは楽しみです。最後にとってもいい話をしてくださって、ありがとうございます。坂嶋さん、貴重なお話を、ありがとうございました。

坂嶋: ありがとうございました。

清涼院: では、ターニャ、次のページをお願いします。

4. 秋月涼介さん（作家）

本日の予定

1. Opening
～清涼院流水（The BBB 編集長）ご挨拶
2. エージェント工刀さん（The BBB 校正責任者）
3. 坂嶋竜さん（評論家）
4. 秋月涼介さん（作家）
5. 真山知幸さん（偉人本&名言本 著者）
6. 蘇部健一さん（作家）
7. 藤枝暁生さん（酒場本&英語本 著者）
8. 積木鏡介さん（作家）
9. The BBB 10周年記念プロジェクト 発表
10. Q&Aセッション（延長の可能性あり）～Ending

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 次は、画面に表示されています通り、秋月涼介（あきづき・りょうすけ）さんです。
秋月さん、つながっていますか？

秋月涼介（以下、秋月）: はい。聞こえてますか？

清涼院: 聞こえてます。秋月さん、よろしくお願いします。

秋月: よろしくお願ひします。

清涼院: では、スライドの次のページを、お願ひします。

秋月涼介 (あきづき・りょうすけ)

2001年、『月長石の魔犬』で第20回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。
The BBBでは連作ミステリーの『The Gifted』シリーズと、グルメリポート『The Sifted』シリーズを継続中。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 「秋月涼介さん。2001年、『月長石 (げっちょうせき) の魔犬 (まけん) 』で第20回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。The BBBでは連作ミステリーの『The Gifted』シリーズと、グルメリポート『The Sifted』シリーズを継続中。」で、画面左下にあるのが『The Gifted Vol. 1』です。ミステリー『The Gifted』シリーズの第1巻、これは無料で提供させていただいています。そして、そのとなりがVol. 8、第8巻、現時点での最新刊となります。先ほどお話しましたように、Vol. 9が来月(2022年1月に)出る予定ですので、そちらをお楽しみに、という感じで。それについては、あとでまたお話が出ると思います。その横にグルメリポート『The Sifted』シリーズの最初のVol. 1と、最新刊Vol. 10まで進んでいます。この『The Sifted』シリーズは、全巻無料でご提供しています。秋月さんには、毎週(土曜日の正午に)The BBBのFacebookページで連載させていただいて、1度も休んだことがないという、すごい連載で。実は最近、The BBB全体の刊行ペースが遅れているので、どんどん『The Sifted』のEpisodeが溜まっちゃっていて。Vol. 10も、実は、だいぶ前のことなのですが。秋月さん、休まず連載してくださって、本当にありがとうございます。

秋月: いえいえ。こちらこそ、連載させていただいて、ありがとうございます。

清涼院: いや、本当に、秋月さんの継続はすごいのですが。まず、この1ページ目を表示したままで、秋月さんからの1個目の質問に移りたいと思います。ターニャ、秋月さんの質問1個目をお願いできますか。

秋月涼介さんからのご質問（1 / 2）

1. 『The Gifted』などの2ドル（220円前後）の電子書籍の分量について、どう思いますか？（単一選択）*



清涼院: いかがでしょう。ご感想は？

秋月: あ、けっこう「妥当だと思う」人が多いんだなと。あと、長さを気にしない人もいますね。

清涼院: まあ、難しいですよ、これは。The BBB では、多くの作品を2ドルで、一部は3ドルで発売しているものもあるのですが。短編小説を2ドルで、どう思われるか。満足度にもよると思いますので、非常に難しく、答えようがなかったかもしれないですけど。ただ、いい質問だなと思いました、これは。

秋月: 紙の本だと、枚数が増えると値段が上がる、というのがあるんですけど。

清涼院: あー、確かに。

秋月: 電子書籍だと、いくらページ数が増えても値段が変わらなくなると、長いほうが良いのか、短いほうが良いのか。

清涼院: そうそう、実は、あとで話が出るかもしれないですけど、積木鏡介（つみき・きょうすけ）さんの『都市伝説刑事』シリーズの「事件3: くねくね（踊る白い影）」という作品が、めちゃめちゃ長くて、あれはお得だと思いますね。2ドルですが、ほかの作品の5倍くら

いの分量があるので（笑）。そういうのは、電子ならでは、ですよ。長さが値段に関係ないというのは。

秋月：『The Gifted』も、Vol. 1 から Vol. 9 まで、原稿用紙換算してみたのですが。Vol. 1 は原稿用紙 70 枚くらいなんですけど、Vol. 9 とか 188 枚で。倍以上になっていて……（笑）。

清涼院：確かに、どんどん長くなっている印象はあって……書くことが増えていくんですよ。

秋月：キャラクターが増えたりすると、関係とかが複雑になっていって。

清涼院：かけあいとか面白いので、ぜんぜん苦にはならないんですけど。

秋月：ちょっと、そのあたりは気になりましたね。「妥当だ」とか「あまり長さは気にならない」という意見が多いのなら、気にせずに、書きたいように書いてしまっても大丈夫なのかなと思いますね。

清涼院：それで思い出したこととして、僕は秋月さんに教えていただいて、秋月さんの影響で、最近、始めたことがあるんです。漫画の無料アプリというのがあって。出版社が提供しているオフィシャルなものなので、ぜんぜんイリーガルではないのですが。出版社が本当に、無料で漫画を読めるアプリを出していて。秋月さんに教えてもらって、僕も最近、読み始めたのですが、有名な漫画も 1 日 1 話だけなら無料で読めるんですよ、秋月さん。

秋月：そうですね。

清涼院：秋月さんは、いつ頃から漫画アプリで読まれていたんですか？ だいぶ前から、『ジョジョ（の奇妙な冒険）』とか読まれていた印象があって。数年前から。

秋月：『ジョジョ』は専用アプリがあったんです。

清涼院：あー、また別なんですね。

秋月：本も持っているんですが、アプリはカラーなので、カラーで読んでたんです（笑）。

清涼院：漫画アプリは本当に、やみつきになっちゃう、と言いますか。

秋月：そうですね。1 日 1 話なので、あまりハマらない、というのもあって。ずっと時間を使わずに済むのはいいかもと。

清涼院：お若い読者の方だと、1 日 1 話を読むだけだと、ものたりなくて、つい有料で買っちゃうかもしれないですけど。われわれは 1 日 1 話でも十分に満足できちゃうので。その代わりに、いろんな漫画を 1 話ずつ読んだりするんですが。漫画アプリを教えていただいて良かったのですが、今の秋月さんの話と絡めたかったのは、すごくレベルの高い漫画を無料で読めちゃう時代なんですよ。The BBB にも無料作品はありますが、有料の電子書籍で勝負しているところがあって。でも、“無料の漫画”がこれだけ氾濫している時代に“有料の小説”で戦うのは、すごく厳しいことだと思うんですが、秋月さんは、どう思われますか？

秋月：いやー、厳しいと思いますね。ほかにも、いろんな娯楽とかあるんで。映像とかも含めて、ですね。かなり厳しいな、とは思います。

清涼院: 『The Gifted』はVol. 9が、来月いよいよ出るわけですけど。Vol. 10で「第1部完」というのを考えていらっしゃるんですね？

秋月: そうですね。ちょっと、いったん区切ろうかなと思っています。

清涼院: 「考えていらっしゃるんですね？」と言いながら、僕が「そうしませんか？」と言ったんですけど（笑）。

秋月: そうですね（笑）。しかも、ストーリーが「これは、どうすればいいんだろう？」という状態になっていて（笑）。考えています。

清涼院: そう、『都市伝説刑事』とも通じるんですが、けっこう前の事件の話もされているので。どこかで区切りを入れないと、前の作品を読んでいない人は新作を読めない、ということになっちゃうので。

秋月: そうですね。Vol. 10が出たら、（Vol. 6-10をまとめた）合本のVol. 2が出るというイメージなので。ふたつ合わせれば完結までいく、という感じにはなるかと思っています。

清涼院: 秋月さんと言えば、『ジョジョ』がお好きですけど、『ジョジョ』が何十巻に達して読者がついていきにくくなったので、途中から（シリーズ第7部の）『スティール・ボール・ラン』とか（第8部の）『ジョジョリオン』のように、作品のタイトル自体を変えてしまいましたよね。

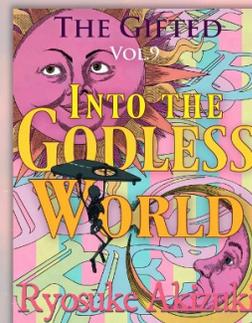
秋月: ですね。

清涼院: ですから、もしかしたら『The Gifted』も第2部になったらタイトルが変わるのかな、と。僕も、まだまったくわからないですけど。秋月さんと相談して、そこはどうか、という感じですけど。で、Vol. 9は来月出るので、表紙が実はもうできているんです。

秋月涼介 (あきづき・りょうすけ)

「The Gifted」シリーズ、Vol. 10の第一部完結へ最後の加速！
シリーズ最大の衝撃が待ち受ける！

「Vol. 9：神無き世界へ」
2022年1月末発売

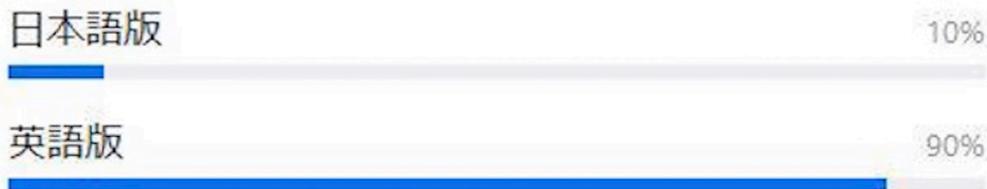


The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: このあとの趣向から先にお話ししますと、佐久間真人 (さくま・まこと) さんという画家の方が、毎回、この『The Gifted』シリーズの表紙を描いてくださっているんです。ここで佐久間さんからのご質問というのを、お預かりしてしまして。その内容を先に言っちゃうと、今、『The Gifted Vol. 9』の日本語版と英語版の表紙が並んでいるのが、皆さん、おわかりだと思っておりますが、どちらがお好きですか、というご質問なんです。投票画面が出てしまうと、この表紙は見えなくなってしまいます。皆さん、画面を見て、1分間、考えてみてください。そのあと、投票にしますので。(1分が経過して) 投票画面が出ました。じゃあ、皆さん、どちらがお好きか、投票してください。

佐久間真人さんからのご質問

1. 『The Gifted Vol. 9』の表紙、日本語版と英語版では、どちらがお好みですか？（単一選択）*



清涼院: いかがですか、秋月さん？

秋月: 自分も、ちょっと英語版のほうを選びました。

清涼院: 僕も英語版を選びました。日本人として、裏切り者じゃないですけど（笑）。

秋月: この『The Gifted Vol. 9』はですね、ウィジャボードを使った降霊術（こうれいじゅつ）がテーマになっています。そのボードに描かれている太陽と月と、あと、骸骨が持っているのは、プランシエットという盤の上で使うボードです。それに骸骨が手をかけて滑空している感じになっていると思うんですけど、個人的には英文の上にそれが乗っかっているのがカッコイイな、と。

清涼院: いやー、でも正直、ここまで差がハッキリ出るとは思わなかったですね。

秋月: あ、そうですね。

清涼院: もっと半々になるのかな、と予想していたんですが。ただ、佐久間さんは「まず英語版の読者に」ということは考えてくださっていると思います。画面の下に既刊の8冊が並んでいて圧巻なんですけれど、このペーパーバック（洋書）っぽい表紙で、まず英語がじっくり絵に載るように、ということをもまず第一に考えてくださっていると思いますので。その意味では自然な結果ではあるんですが、それにしても圧倒的な結果でしたね。そして、今、ウィジャボードの降霊術と、さっそく秋月さんお得意のスピリチュアルな話題が出たところで、ここで、秋月さんからのふたつめのご質問があります。表示していただけますか。

秋月涼介さんからのご質問（2 / 2）

1. 幽霊や悪霊について、どう思いますか？（単一選択）*



清涼院: 結果が出ました。

秋月: 「（幽霊を）見たことがあるので、いると思う」という人がいるんですけど（笑）。

清涼院: あー、しかも、10%だから、おひとりではないでしょう。

秋月: でも、皆さん、わりと「（幽霊は）いる」と思っている人が多いですね。

清涼院: そうでしょうね。幽霊や悪霊は、文化として、小説でもいっぱい出てきますし。

秋月: 自分は（幽霊を）見たことがないので、わからないんですけど。皆さんは、どのように思っているのかな、と気になったので。

清涼院: これは質問として面白いですよ。今、ちょうど15分なので、秋月さん、あと5分くらいです。いいタイミングで質問していただいたと思うんですが、『The Gifted』シリーズは、けっこうスピリチュアル要素もあって。もちろん、ミステリー（推理小説）として面白いんですが、スピリチュアルと、先ほど『The Sifted』でもあったように、グルメ要素です。僕が今日、秋月さんにお聞きしてみたかったことがあります。秋月涼介さんとか『The Gifted』の世界観は、キーワードとしては、ミステリーがあり、グルメがあり、スピリチュアルがあり、という三本柱だと言って良いと思うんですが、秋月さんの中で、どれがいちばん好きなのか、好きの割合はどんな感じなんですか？ 脳内での割合を全体が100%だとすると……？

秋月: 一応、ホラー要素もあると思ってるんです。

清涼院: じゃあ、ミステリーとホラーは一緒にしちゃって、ホラーでもいいですけど。ホラー、スピリチュアル、グルメだったら、どういう割合なんですか？

秋月: イメージ的には、グルメは趣味で書いているところもあるんですけど。スピリチュアルというと表現が難しいんですが、「どうやって、この世で楽しく生きていくか」みたいな話から始まっていると思っていて。まあ、そのために、「この世界は、どうなっているのか」とか、「どういうふうには人は生まれて、死んでいくのか」とか、そういうところから入っているので。そういう小説を書きたいな、と思った時に、「人が使命を持って生まれてきて、この世で修行をして死んで、また生まれ変わってくる」という世界観が、実際にそうなんだよとする世界でミステリーを書いたら面白いかな、と思って。そこにちょっと超常能力やSFっぽいところも加えて、自分が好きなものをぜんぶ詰め込んだ、みたいな話になっているので。どれがいちばんかと言われると、けっこう難しいんですけど。まあ、ベースとしてはミステリーと、自分が書きたかったスピリチュアルという世界観の二本柱みたいな感じですかね。

清涼院: なるほど、わかりました。それで、『The Gifted』シリーズは巻を追うごとに世界観が、どんどんしっかりできあがっていった。どんどん面白くなっていると思うんです。なおかつ、僕がお願いして、Vol. 8からラスボス（最後の敵）を出していただいたら、急に緊張感がまた高まって。来月出る Vol. 9では、いよいよラスボスとの直接対決となって、画面に「最大の衝撃が待ち受ける！」とあるのは、ぜんぜん誇張ではなくて。僕も「次回どうなっちゃうんだ？」というくらいの終わり方なんですね。もちろん、ミステリーとして結末はありつつ、なおかつ、シリーズ全体としては、ラスボスとの対決が、すごいところで終わっていて。これは秋月さん、Vol. 10、大丈夫ですか？（笑）構想は、おありなんですか？

秋月: 自分もちょっと不安になってきてます、今（笑）。

清涼院: 「秋月さん、ここまで行っちゃったよ！」というくらいで。それは非常に良いことだと僕は思っていて。作家さんがそこまで突き抜けるというのは、すごく乗ってる時なんで。これは、『The Gifted』は今、すごい乗ってるな、と。Vol. 9は、すごい突き抜け方をしましたからね。あとは着地できるかどうか、という。今、空中でウルトラCを決めた状態で。

秋月: バタバタしてるかもしれないですね（笑）。コケたらすいません（笑）。

清涼院: 着地で骨折、みたいな（笑）。これは、並の力量では着地できないような世界まで行っちゃってるので。Vol. 9が発売される前で恐縮なんですけれど、Vol. 10が楽しみすぎで。

秋月: 悩ましいんですけど、やっぱり、さっきも言ったように、Vol. 10もミステリーであり、ホラーであり、スピリチュアルであり、で、キャラクターもぜんぶ活かさなきゃいけない、みたいなのが枷（かせ）としてあるので。

清涼院: ハードルは、めちゃめちゃ高いですね。

秋月: それをどうやってまとめればいいのか、というのが、今ちょっとわかっていない状態です。

清涼院: あと1分くらいなんですけど、秋月さん、もし何か言っておきたいことがあれば。

秋月: いつも自分が作品を書いて提出すると、流水さんがいろいろコメントをつけて返してくれるんですけど。流水さんが読みながら Word にその時の気持ちを書いてくれているんです

が、その中で「『The Gifted』最高！」とか「この世界観、たまらねー！」とか書いてあると、自分も嬉しくなっちゃって。

清涼院: あれはね、僕たち（メフィスト賞作家）をデビューさせてくださった宇山（うやま）さんという伝説の編集者がいらっちゃって、2006年にお亡くなりになったんですが、宇山さん直伝なんですよ、あのコメントは。

秋月: あー、そうなんですね。

清涼院: だから、もちろん、積木さんの『都市伝説刑事』シリーズとか、神狩り博士の『Towerld』シリーズにも、そのような書き込みはしていますし。宇山さんの書き込みというのは、本当にすごくて。実際にそこでしゃべってるみたいな感じなんです。

秋月: そんな感じですね。

清涼院: 「これは最高！」とか、「ワオ！」とか書いてあるんです（笑）。そういうのが僕もすごく嬉しかったので。そういう感じで僕も作家さんと一緒に……僕自身も作家なんですが、編集者の時には作家さんに寄り添えたらいいな、と思っています。なので、秋月さん、Vol. 10のハードルがめっちゃめっちゃ高いのはわかりましたけれど……。

秋月: そうですね。怖いんですけど。

清涼院: ものすごく楽しみにしているので。来年のキャスパで発売は無理でも完成してるみたいな、と仄かに期待しているんです。

秋月: はい、がんばります。

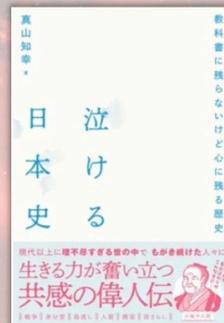
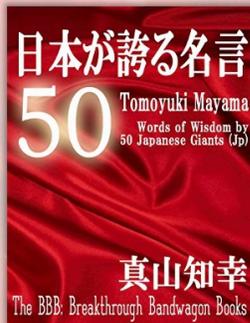
清涼院: 大変だと思いますが、引き続き、よろしくお願いします。貴重なお話を、ありがとうございました。

秋月: また流水さんのコメントいただけるように、がんばりたいと思います。ありがとうございました。

5. 真山知幸さん（偉人本&名言本 著者）

真山知幸（まやま・ともゆき）

出版社勤務中から著作活動を開始。
別名義も含めると、40作品以上の著作がある。
2018年に発表した
『ざんねんな偉人伝』『ざんねんな歴史人物』が20万部突破。
2020年に独立し、専業作家となる。



The BBB: Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: ここから真山知幸（まやま・ともゆき）さんのコーナーとなります。「真山知幸さん。出版社勤務中から著作活動を開始。別名義も含めると、40作品以上の著作がある。2018年に発表した『ざんねんな偉人伝』『ざんねんな歴史人物』が20万部突破。2020年に独立し、専業作家となる。」それと、先ほど言い忘れましたが、このコーナーのあとに休憩時間を10分とりますので、休憩前最後のコーナーとなります。真山さん、今日はお忙しいところに駆けつけていただいて、すみませんでした。

真山: とんでもないです。すみません、お騒がせしました。

清涼院: 駆けつけていただいて、と言っても、ご自宅に帰られたんですが（笑）。

真山: いやいや（笑）、よろしくお願いします。

清涼院: ここからあとの時間は大丈夫なんですか？

真山: ぜんぜん大丈夫ですよ。用事は終わりましたので。

清涼院: 画面左下の『日本が誇る名言 50』というのは、The BBB から出させていただいた本なんですけど、その右に並んでいる3冊が、真山さんが今年、出された本です。

真山: そうですね。

清涼院: 最近は本当に1冊の本を出すのが大変な時代なので、テンポ良く3冊出されたというのは、いかに専門作家になられたとはいえ、すごく順調なスタートじゃないかなと思います。去年も何冊も出されていまして。新刊が1年に3冊というのは、真山さんご自身にとっては多いのか少ないのか、どう思われていますか。

真山: まあ、このくらいがちょうどいいんじゃないですかね。専門だと。

清涼院: 本を出しすぎると、読者がついて来られないこともあるじゃないですか。そこがまたすごく難しい、というか。

真山: そうなんですよね。今回、後半の2冊は発刊が近づいちゃったので。やっぱ、PRするほうでも忙(せわ)しない、と言いますか。

清涼院: 確かに、同時期に出ちゃうと、ファンの方ほど「どっちの本にしよう。同時に2冊はきついな」ということもあるでしょうし。

真山: その予定じゃなかったんですけど、一緒になっちゃったんですよね。

清涼院: あと、この『偉人名言迷言事典』は、けっこうヴォリュームもあって、これを読むだけでも時間がかかりそうですから。それを味わっている最中に次の本が出たら読者は困る、というか。

真山: そういうのもありますよね(笑)。

清涼院: 真山さんは長年、雑誌の編集長も務めてこられたこともあって、僕がいつも感心するのは、企画のキャッチーさんなんです。

真山: あー、そうですかね？

清涼院: キャッチーだし、本を拝見しても、よくつくり込まれていて。ちなみに、今年の3冊だと、先方から依頼があったのか、それとも、ご自分で企画を持ち込まれたのですか？

真山: まあ、半々くらいですかね。向こうから声をかけていただいて、打ち合わせで話しながら決めていく、みたいな感じですかね。

清涼院: 真山さんといえば、偉人本と名言本をたくさん出されている印象があって、その方面の権威と言えらと思います。それで、先方から「例の偉人本か名言本をお願いします」と言ってこられるんですか？

真山: 「偉人」で検索しているケースが多いですね。

清涼院: ああ、なるほど。

真山: 偉人って、けっこう範囲が広いので。そこを専門にしている人はあまりいない、と言いますか。

清涼院: 確かに、真山さん以外に、あまり聞いたことがないです。そういう本は世の中にたくさんありますけれど、それ一本でやっている方というのは、たぶん、あまりいないですよ。

真山: 広いですからね。範囲的に。

清涼院: 非常に面白いのは、真山さんは偉人と名言だけで押し切って、しかも40冊以上も出されているという。これは、すごいことですよ。

真山: 範囲が広いので、切りクちは「天才」とか「アウトロー」とか、いろいろやりようはあるかな、と思うんですけど。そのぶん、やっぱエッチとか。ずっと新撰組のことを書いている著者なら固定ファンがつくんですけど、テーマが広い場合、ファンがつきにくい、ということはあるかな、と思ってますけどね。

清涼院: 確かに、新撰組だと決まったファン層はありますが、偉人は広すぎますね。

真山: 新撰組で40冊出したら、かなりファンがついてくると思うんですけど(笑)。いい意味でも悪い意味でも、読者層が固定化されなくて。

清涼院: 「偉人」と「名言」だと、どんな分野でも、ぜんぶ入れられますよね。しかも日本とか、三国志の本の中国だけでもなくて。すべての国のすべての時代が入っちゃうので。

真山: ジャンルのファン、というのがいないところで活動しているので。だから、ちょっとしんどい時もありますけどね。

清涼院: まあ、でも、それが良い面もあるんでしょうね。

真山: 両方あるんで(笑)。そこは、なかなか難しいですけど。

清涼院: 表現者としてその道を選ばれた、真山さんのひとつの選択ですよ。

真山: そうですね。広くやっているので、そちらに行きましたね。

清涼院: そこから『ざんねんな偉人伝』のようにメガヒットすることもあるわけで。

真山: その代わりに、すごい三振もありますけどね(笑)。

清涼院: 場外ホームランか三振か、みたいな?(笑)

真山: 信じられないくらい売れない本も、けっこうありますからね(笑)。

清涼院: いや、今の時代は、それがふつうですからね。

真山: いやいや、ほんとに(笑)。

清涼院: 売れないのが、ふつうの時代なので。

真山: いや、何年前か、ほんとに出版社を出禁(できん)になるんじゃないか、というくらい売れなかった本がありましたよ。もう2度と声はかかからないですけど(苦笑)。

清涼院: あー、それは僕も耳が痛い、というか(苦笑)。ある出版社で売れないと、ほんと、出禁になる、というか……。

真山: そうですね(苦笑)。申し訳ないな、とは思ってますけど。

清涼院: 僕も、トラウマ的に売れなかった本とか、ありますからね。

真山: まあ、そこは仕方ないですけどね。ギャンブル的な要素は、どうしても入ってくるんで。

清涼院: そうそう、だから僕なんかね、人生でギャンブルしたことないんですが、出版がいちばんギャンブルだという……。

真山: あー、そうですね（笑）。出版社が金を使っているので、こちらのギャンブルではないんですけどね（笑）。

清涼院: 出版社は、宣伝費とか、けっこう使ってくれていますから。

真山: 紙の印刷も、けっこうかかりますからね。

清涼院: だから、売れなかった時に、ほんと、「やばい」と思っちゃいますよね。

真山: なんだかんだで、1冊つくるのに400万円くらいかかりますからね。

清涼院: ある程度は売れないと、赤字になっちゃいますから。そうすると当然、われわれも次の仕事をもらえない、という……。作家さんは「売れてナンボ」なので。

真山: 増刷は私は正直、けっこう難しいんですが、増刷しなくても初版でなるべく売って、利益になればいいかな、と思って。

清涼院: 出版社も、そういう戦略をとるところはありますよね。1刷だけで終えて、初版で売り切って、増刷は絶対しない、みたいな。

真山: それでも利益が出てれば、変に増刷して利益が出ないよりいいケースが、けっこうあると思うんで。

清涼院: 変に刷っちゃって、それで赤字になるケースも、あると思いますし。見誤ると。

真山: そうなんですよ。まあ、しょっぱい話ですけどね。ほんとは、どんどん売っていききたいんですけど。

清涼院: そういう意味では、ほんとに難しい時代だなと思って。

真山: ほんとですよね……。

清涼院: 真山さんは、去年のキャスパでも話題に出したんですが、お子さんが3人もいて……これは公表されているので言っていると思いますが。

真山: はいはい。

清涼院: 実際、今年の最新刊は親子がテーマになっていたり。『天才を育てた親はどんな言葉をかけていたのか?』……この本などは、三児の父ということで、説得力が増しますよね。

真山: そうですね。これはほんとに、育児経験を経て書けた本かな、と思いますし。まあ、以前から名言集は出していたんですが、偉人が発する言葉じゃなくて、かけられる言葉というのが少し新しいかな、と思って。

清涼院: それは、めちゃめちゃ新しいです、確かに。ちなみに、これは、どなたのアイデアだったんですか?

真山: これは私が前から考えていて。

清涼院: あ、そうでしたか。

真山: でも、企画がぜんぜん通らなくて。まあ、わかりにくいので。編集者は面白いんですけど、営業部で、まずダメなんですよ。

清涼院: あー、そうそう、それがあつたんですよ。

真山: そうなんですよ。

清涼院: こういう業界話は、もしかしたら読者の方も面白がってくれるかもしれないです。しかも、編集さんと営業さんが、出版社によっては、めちゃめちゃ仲が悪いことがあつて。

真山: あー、ありますよねー。

清涼院: 僕の担当編集者が、営業さんに嫌われてたりして (笑)。

真山: それは最悪ですね (笑)。

清涼院: ちょっとやばいですよね。

真山: でも、営業会議の壁というのは確実にあつて。企画が通つたとしても、けっこうつまらなくされることがあつたんですよ。営業会議の意見を取り入れて。今回は親野 (おやの) 先生という教育評論家の方に入つていただくことで、企画のハードルはクリアできたかな、というふうな感じですかね。

清涼院: いやほんと、昔あつた『踊る大捜査線』の「事件は会議室で起きているんじゃない。現場で起きているんだ!」というセリフ、あれは出版界にも当てはまるな、と。「事件は企画会議で起きているんじゃない」、と。

真山: 企画会議で事件がさうとう起きてますよ (笑)。ほんとに、そう。さうとう売れない方向に舵 (かじ) を切られる時があつたからね。

清涼院: めちゃめちゃあります、それは。

真山: ありますよね (笑)。

清涼院: いっぱい本を出していると、さういう体験が溜まりますよね。

真山: 中くらいのヒットを目ざしてぜんぜん売れないのが、いちばん悔やまれる、さうか。

清涼院: あと、出版不況になると、変な安全パイに走ろうとしますよね。

真山: そうなんですよ。

清涼院: 「さうしたらた売れさう」と言つて、せつかく尖つていた部分を丸めちゃつて。

真山: 結果、どつちつかずになつて、さうなのは、けっこうありますね。実際に。

清涼院: 最終的には著者のせいにされる、みたいな (笑)。やばいですよね……。真山さんは3人のお子さんがいらつしやる中で、雑誌編集長という職があつたながら、あえて専業作家に舵を切られて。僕が伺つたかつたのは、専業作家になられて1年数か月が経ちますけれど、兼業との違いとか、何か感じられるメリットやデメリットは、あつたさうか?

真山: 仕事の幅は、やっぱり広がりましたね。不思議で、やつてゐることは変わらないんですけどね。フリーになつたことで発信が増えていって。偉人系の映画のパンフレットの解説を書

きませんか、とか。そういう思ってもいなかったような仕事は、フリーになってから増えて。単価は大したことないんですけど（笑）。知名度が広がるチャンスは増えたのかな、というふうには思いますね。やっぱり原稿料とか印税率とか、そのへんは、だんだん気難しくなってきたなど、自分でも思います。昔は何も言わなかったんですけど（笑）。

清涼院: それは当然ですよ。お子さんを3人養っているわけですから。

真山: そうっすね。ちょっとキャラ変しつつありますね（笑）。

清涼院: 自分だけじゃなく、お子さんを背負っているのはデカイですよ。

真山: おおらかさが、なくなってきましたね。まあ、でも、まだ1年ですけど、今のところ楽しくやれているので。諸先輩方のアドバイスを本当に活かしながらやっていきたいなと思っていますけどね。

真山知幸 (まやま・ともゆき)

◆真山知幸の偉人チャンネル

偉人研究家 真山知幸

研究の成果をほぼ毎日更新 (めざしてます)!

真山知幸の偉人チャンネル
チャンネル登録者数 77人

チャンネル登録

アップロード済み すべて再生

並べ替え

動画タイトル	長さ	視聴回数	投稿日時
話題の信長本! 新刊「もしも、君のクラスに織田信長...	1:05	43 回視聴	7 日前
【偉人教室】浪沢栄一が弥太郎にブチ切れて帰ったワケ	7:44	102 回視聴	9 日前
【偉人教室】「大久保は嫌い、西郷は意味不明」浪沢...	22:46	212 回視聴	2 週間前
真山知幸インタビュー (偉人研究家に色々聞いてみた)	9:51	57 回視聴	4 週間前
まもなくラジオに出演します! #shorts	0:14	118 回視聴	2 か月前

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: スライドの次のページが出たところで、真山さんからの質問をお願いします。（投票が行われる）では、結果発表をお願いします。

現在、投票結果（ホストによる共有）が表示されています

真山知幸さんからのご質問

1. YouTube「真山知幸の偉人チャンネル」の低迷が続く（チャンネル登録者数75人、再生回数は2桁がほとんど）。今後、私にとるべき方針は？（単一選択）*



真山: うおー、毎日更新だ。

清涼院: いかがですか、真山さん？

真山: 毎日かぁ……大変なんだよな……。

清涼院: YouTubeは、「短めの名言動画を毎日更新する」。でも、けっこう大多数ですね。半分以上です。

真山: やっぱり、習慣にする、ってことですかね。

清涼院: 僕もYouTubeは好きで毎日観てるんですが……。

真山: 何を観ているんですか、流水さんは？

清涼院: 僕は仕事しながら、英訳しながら英語のゲーム実況とか。

真山: あー、そうなんですか。えー。

清涼院: あとは、お夜食を食べながら、ラジオをYouTubeで聴いたりとか。そういうのは、しますけどね。

真山: はいはいはい。そうかぁ……毎日かぁ……。

清涼院: 今、スライド2ページめに出ている、これですよね。「真山知幸の偉人チャンネル」。

真山: あー、そうです、そうです。

清涼院: これは、いつ頃から始められたんですか？

真山: 2年くらい前……1年くらいですかね。まったく更新していない時期とかもあって。

清涼院: あ、じゃあ、去年のキャスパ (Cast Party 2020) の時にも、やられていたんですね？

真山: 一応、あったかもしれないですね。形だけは、あったかもしれないです。

清涼院: で、最近は、これに力を入れられているんですか？

真山: そうっすね。新刊が出る前に、9月くらいに力を入れて。で、また今は嫌になっている、という時期ですね。ほんと、これは、やるとキリがないんで。やっぱりやめたいな、ということ、ちょうど思ってたんですよ。この質問を考えた時にはがんばろうとしたんですけど、まあ、でもなー、なかなか、やっぱり……。

清涼院: だって真山さんは、執筆だけで大変なところに、YouTubeの頻繁な更新というのは、けっこう大変だと思いますよ。しかも、子育てもあるし。

真山: そうなんです。子供がいる時 (のYouTube収録) は嫌なんで。やっぱり、ひとりの時にやりたいな、と。さっきの話とつながるんですけど、ジャンルにファンがないので。自分についてもらうしかないな、と、思っていて。ここで100人、200人だけでも積み上げられたら、という下世話な考えもあるんですけどね。でも、確かに、毎日名言が習慣になれば、編集とかそんなにせずにすればいいのかもしれないですけどね。

清涼院: The BBBもね、「YouTubeに力を入れたらどうですか」と言われることもあるんですが、簡単じゃないですよね。

真山: いやー、そうっすよ。

清涼院: だってYouTubeの方なんて、ほんとに、それに専念するという形で。毎日、朝から晩まで、ほんとにフルタイムでやってらっしゃる方が多いですからね。

真山: そうですね。僕はVoicy (ボイシー) というラジオも、たまにやってるんですけど、そっちのほうが、まだ音声だけなんで。やっぱり映像が入ると、一気に大変になりますね。編集とテロップと、自分の顔を出さないといけないから。音声とかのほうが、まだラクですね。

清涼院: おひとりで、ぜんぶやられてるんですか？ 撮影から……。

真山: 後輩が「やりたい」と言い出して、手伝ってくれてはいるんですけど。まったく無給なので、私も強く言えなくて。まったく滞 (とどこお) りがちになっていて。やるんだったら、やっぱり、ちゃんとお金を払って頼まない、お互いにあんまり良くないかな、という感じも、まあ、ありますけどね。わかんないですけど (笑)。今は、ひとりでやってるのに近いかな。

清涼院: 真山さん、今で15分くらいなので、あと5分くらいありますから。あと5分くらいかけてまとめに入る、という感じで、お願いします。

真山: はい、わかりました。いつも本当にありがとうございます。毎年、私の名言本の売り上げを教えていただいている。いくつか売れたりして。やっぱ1冊でも売れているというのは、本当にすごいなと思っていて。

清涼院: ちょっとずつダウンロードされてますからね。

真山: 英語で自分の本が出る、というのが。

清涼院: 日本語版もですけど、英語版でちょっとずつ広がっているのが、すごいなと。

真山: それは本当に衝撃というか、電子ならではだなと思いますし。

清涼院: 英語の本って、すごくたくさんありますからね。だから、英語って、可能性あるように見えて、実は、メジャーリーグなんですよ。

真山: そうそうそう（笑）。

清涼院: 日本人のクリエイターと話していたら、「チャンスを求めて英語圏で勝負したい」と言うんですけど、いや、日本より厳しいですよ、というところもあって。

真山: そうなんですよ。

清涼院: コンテンツの数が、ぜんぜんケタ違いですからね。

真山: そう、だから紙の本を英語で出版してもらうというのは、めちゃめちゃハードルが高くて。みんな、それを夢見るんですけど、まず無理なんで。ほんとに、こうして電子書籍で1部とか2部とか10部単位でやれるというのは、今後も本当に力を入れていきたいな、と思っていますんで。

清涼院: The BBB の良いところがあるとすればそこで、ゲリラ的にやっていける、というか。さっき真山さんもおっしゃったように、紙の本だと、どうしても在庫リスクとか、印刷コストとか、めちゃめちゃかかるので。それでけっこう圧迫されて潰れちゃうんですけど、The BBB は電子でやっていることでリスクを最小限にしてコストがほとんどかからないので、まあ、それで10年も続けてこられたし。まだまだ可能性もあるという。

真山: 10年かぁ……。

清涼院: 来年（2022年）で10周年になるんですけど。

真山: あ、来年ですね。

清涼院: それは、すごく良い戦略だったと思います。紙の本で海外に打って出ようとしたら、それはすぐに潰れますよ。

真山: うんうん。ちょっと自分のやっている偉人や名言のテーマで、英語圏ならではのものを、今後少し考えていきたいと思っていますので。

清涼院: それこそ『ざんねんな偉人伝』みたいにうまくハマった時に海外のほうがすごい、というか。ピコ太郎さんとか、あの短い動画でブレイクしましたし。

真山: そうですよ（笑）。あれでブレイクするんですよ。

清涼院: あれを観たあとで「やれば良かった」と思う人はいっぱいいたと思うんですけど、ピコ太郎さんは、あれで世界一になりましたからね。

真山: 確かに（笑）。観る前には、あれは気づかないですね、なかなか。

清涼院: 気づかないので、真山さんも、偉人と名言版の PPAP（Pen-Pineapple-Apple-Pen）みたいなものが、たぶん、あるんですよ。

真山: そうっすね。数を撃って（笑）。

清涼院: それは 10 秒とかでも届くかもしれないし。

真山: ほんと、そうですよねー。

清涼院: 1 分動画で、もしかしたら真山さんが世界中でバズるかもしれないし。

真山: そこをねらって、今後もやりたいと思っていますので。よろしく願いいたします。

清涼院: それこそ、英語で発信するのはありかもしれないですね。

真山: はじめから、ですね。

清涼院: 字幕だけでも英語にするとか。

真山: あー、そうか。

清涼院: そうすると、食いつきが良いかもしれないです。内容紹介も英文にしてみる、とか。

真山: YouTube は世界ですもんね。確かに、言われてみれば。

清涼院: 日本の素人の動画が、けっこう海外からツッコミ入れられたりしているようなので。

真山: ネタを見つけられればね。

清涼院: （海外の人にも）届いちゃうみたいですね。ふつうの素人の日常的な動画に、外国人がツッコミを入れたり、というのはあるらしいので。

真山: ふーん。日本人ならではのコンテンツがウケるかもしれないですね。ちょっと今後もやっていきたいと思います。

清涼院: 真山さん、この YouTube 画面のいちばん左端にあるコミックの監修もされたんですよね？

真山: あ、そうです。織田信長のやつですね。

清涼院: そういう監修のお仕事も入ってきているんですか？

真山: はい。監修のお仕事も時々いただいて。

清涼院: 監修をするというのは、権威として認められている、ということですね。

真山: あ、いやいや。まあねー、ほんとに、ありがたい話ですけどね。そのへん、また新しい講演とかにもつなげていければな、というふうには思っております。

清涼院: だいたいあと 1 分くらいですが、最後に、なにかお話しされたいことがあれば。

真山: そうですね。英語の発信もやっていきたいと思っています。「日本人の知られざる偉人」とかね。「知られざる名言」とか紹介していきたいと思っていますので。皆さんのコンテンツも見ながら勉強していきたいです。よろしくお願いいたします。

清涼院: これからもぜひ、またいろいろとご一緒させていただければと思いますので。

真山: はい、ありがとうございます。

清涼院: 子育ても大変だと思いますが、引き続き、執筆活動もがんばってください。

真山: またお願いしまーす。

清涼院: 真山さん、ありがとうございました。

真山: ありがとうございます。

6. 蘇部健一さん（作家）

本日の予定

1. Opening
～清涼院流水（The BBB 編集長）ご挨拶
2. エージェント工刀さん（The BBB 校正責任者）
3. 坂嶋竜さん（評論家）
4. 秋月涼介さん（作家）
5. 真山知幸さん（偉人本&名言本 著者）
6. 蘇部健一さん（作家）
7. 藤枝暁生さん（酒場本&英語本 著者）
8. 積木鏡介さん（作家）
9. The BBB 10周年記念プロジェクト 発表
10. Q&Aセッション（延長の可能性あり）～Ending

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

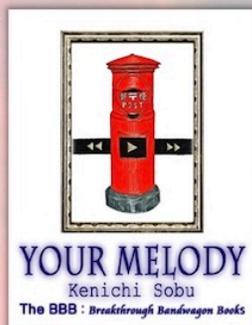
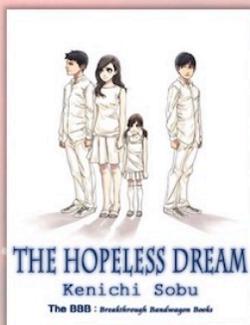
清涼院: では、蘇部さん、よろしくお願いします。

蘇部: はい。よろしくお願いします。

蘇部健一（そぶ・けんいち）

1997年、『六枚のとんかつ』で
第3回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。

The BBBでは『叶わぬ想い』、『きみがくれたメロディ』を発表。



The BBB: Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: まず、これが蘇部さんのページですね。「蘇部健一さん。1997年、『六枚のとんかつ』で第3回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。The BBBでは『叶わぬ想い』、『きみがくれたメロディ』を発表。」まず、左下にあるのが蘇部さんの「叶わぬ想い」という短編を英訳させていただいた「The Hopeless Dream」という作品です。そのとなりが「きみがくれたメロディ」という短編の英訳版「Your Melody」。その右が、蘇部健一さんの伝説のデビュー作として有名な『六枚のとんかつ』ですね。そして、右下が現時点での最新刊となる『あなたをずっと、さがしてた』です。今日は、これから蘇部さんと徐々にいろいろな話をさせていただきたいと思っているのですが、キャスパで毎年お聞きしているのは、蘇部さんの近況であったり、蘇部さんが出版界をどのようにご覧になっているかということ。僕がいつも蘇部さんに感銘を受けるのは、蘇部さんは、けっこういろいろなことを観察されているんです。特に出版界のこととか、観察されていて。ご自分のお考えも持っていらっしゃる。去年（Cast Party 2020）もいろいろなお話をさせていただきましたが、今、蘇部さんが去年から今年にかけて、どう思っているのかということ、近況も交えて、まずはお聞きしたいと思います。いかがでしょう。

蘇部: そうですね。新作のほうは、あいかわらずなかなか発表しづらい状況なんですけれど、今年2月に小学館文庫で出たショートショート『超短編！大どんでん返し』というアンソロジーがありまして。30人の作家さんが参加して、ひとり4ページのどんでん返しのショートショートを書いている、というアンソロジーなんです。私も、どさくさに紛れて参加させてもらったんですけど。

清涼院: あ、いいですね。

蘇部: それ良かったのか、書店で展開してくれているお店が多いみたいで。

清涼院: そのへんは難しいですね。電子が売れ行きが伸びているから、電子を重視する出版社も多いし。逆に、電子を捨てることによって、そうして紙の本が届いたりすることもある、というのが。

蘇部: だから、たぶん、営業さんも「電子を出していないんで、書店さんで展開してくれませんか」みたいなことを、もしかしたら言ってるのかもしれないですけど。

清涼院: あー、なるほど。いや、しかし、そんないい話があったんですね。

蘇部: そうなんですよ (笑)。

清涼院: それ、事前に教えてくださいよ (笑)。

蘇部: あ、ごめんなさい! (笑)

清涼院: 蘇部さんに「近況なにかないですか?」とお聞きした時に、特になかったのもし知っていたら、今日それを大々的にやりましたよ。

蘇部: 本をお送りしようかと思ったんですが、なにしろ4ページなんで (笑)。

清涼院: いえいえ、でもそれは立派なことですよ。いや、でも、そんないいニュースから始まって、嬉しいです。本当に。

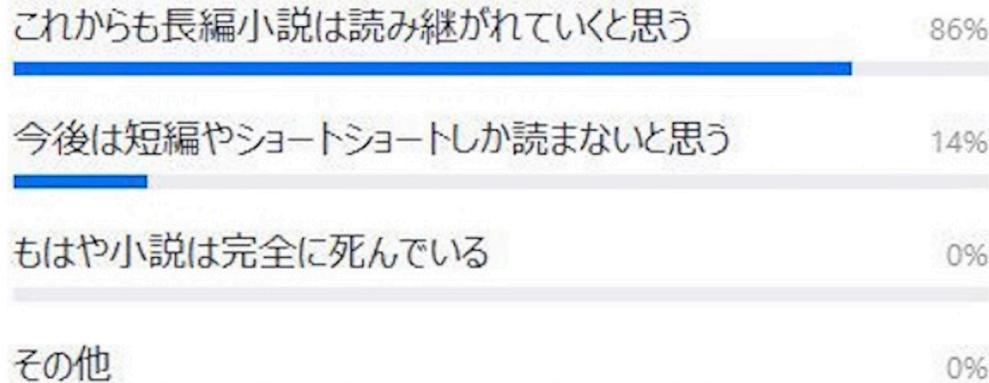
蘇部: だから、私がお送りした質問も、そんな内容になっているんですが。

清涼院: なるほど。では、蘇部さんからのご質問をしてしましましょう。今、話が出たところで。

現在、投票結果（ホストによる共有）が表示されています

蘇部健一さんからのご質問

1. 最近SNSで短いYouTubeやTikTokが流行りですが、小説も、これからは長編小説を読む人はほとんどいなくなり、短編やとくにショートショートが主流になるとは思いませんか？（単一選択）*



清涼院: 蘇部さん、この結果はいかがですか？

蘇部: 前向きな意見が多いですね（笑）。

清涼院: キャスパは、いつも皆さん、ヤル気のある方が揃っていますので（笑）。ポジティブな結果が出る、という……。

蘇部: いや、でも私は、長編はもう本当に読む人は少なくなるだろうな、とっていて。

清涼院: 最近、ほんと、そうらしいですね。特に若い方とかは本当に長い小説は読めない、という話を聞きます。まあ、全員ではないと思いますが。やっぱり、ツイッターとかに慣れているせいですかね？

蘇部: そうですね。だから YouTube とかも今、10分くらいの短いやつしか観なくなったり、とか。あと、TikTok も 15秒でしたっけ？

清涼院: 確かに、言われてみると、そうですね。

蘇部: そうなんです。だからもう、人間は 15秒しか耐えられなくなって。

清涼院: それだと、われわれ人類は、まずい気がしますけどね（笑）。やばい方向に向かって行っている、というか。

蘇部: だから、やっとなれたショートショートも 4ページなんで。4分で読めちゃうんで。

清涼院: でも逆に、蘇部さん、もしかしたら、ショートショートの名手として、という可能性も出てきますよね？

蘇部: それはちょっと考えなくもないけれども、ショートショートだと、最低 20 話は書かないといけないんで (笑)。

清涼院: 元々、蘇部さんは短編がお得意ですから、それをさらにショートショートまで縮めて。実際、「ショートショートの巨匠」とかいますしね。

蘇部: そうなんです。だからあの、ショートショートを書いている作家さんは、田丸雅智 (たまる・まさとも) さんという方は、『超短編! 大どんでん返し』にも参加されているショートショート専門の作家さんなんです。その人は『情熱大陸』とかに出て、売れてるみたいなんで。

清涼院: えー! めちゃめちゃすごいですね。

蘇部: そうなんです。だから、ショートショートの時代かな、と。

清涼院: それで『情熱大陸』まで出ているんですか？

蘇部: そうなんです。

清涼院: 蘇部さんが『情熱大陸』に出たら嬉しいですけどね。The BBB ファンは喜びますよ。

蘇部: それは夢みたいな話なんで、いいんですけど (笑)。

清涼院: それはでも、想像していた以上に時代はそっちに向かっている、というか……ショートショートのほうに。

蘇部: だから、短編すら長い時代になってきているような気はしますね、ほんとに。

清涼院: 僕は昔ね、自分の話で恐縮ですが、出版社に「ショーテスト・ショーテスト (shortest show-test)」という企画を提案したことがあって。ショートショートよりさらに短い、原稿用紙 1 枚で完結する話を 1,000 集めるアイデアを提案したら、「そんなのは誰も読みません」と言われたことがあるんですが、時代がやっぱり変わったんですね、それは。

蘇部: いやー、変わってますね。間違いなく。短編すら、もう長い (笑)。

清涼院: それは、すごい話ですね。いきなりインパクトのあるお話から始まりましたけれど。

蘇部: だから、もしかしたらそこに一筋の光明があるかもしれない、という。

清涼院: それはでも、すごく可能性を感じますから、次に探るべき道かもしれないです。

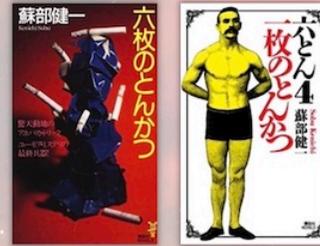
蘇部: ですよ。

清涼院: その可能性は充分にありますよね。その話とも通じるんですが、蘇部さんの作風の話をしたかったので、スライドの次のページを、お願いします。

蘇部健一（そぶ・けんいち）

◆蘇部健一さんの作風の変遷

- ・第一期「六とん」時代（1997～2010）
- ・第二期 運命と感動の時代（2011～）



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: そんないい話が聞けるとは思っていなかったなので、今日は蘇部さんの今までを振り返るお話などしてみたいなと思って、このスライドを準備していたんですけども。

蘇部: すみません（笑）。

清涼院: いえいえ。蘇部健一さんの作風の変遷として、さっきもご紹介した『六枚のとんかつ』からデビューされて、2010年に「六枚のとんかつ」シリーズの現時点での最新刊である『六とん4 一枚のとんかつ』という作品を出されて。ここで「六とん」がひと区切りになっているので、「六とん」時代はここまでかな、と思ひまして。で、第二期が画面の下に並んでいる5作品です。2011年以降に文庫化された作品も含めるのですが、皆さん、この表紙を見ていただいただけでも、わかると思うんです。もちろん、お読みになっている方もいらっしゃると思いますし。僕は「運命と感動の時代」と名づけたのですが、最初の「六とん」時代は、やっぱり、「六とん」に代表されるユーモア・ミステリー、蘇部さんが確立された“バカミス”という印象がどうしても強いんですが。兆候はあったにしても、2011年のこの『古い腕時計』という作品から、もう明らかに確信犯的に変わってきたな、という印象があります。そのあたりは、蘇部さん、何かあったのですか？ 試行錯誤なり、お考えが。

蘇部: うーん……いや、というより、まあ、だんだんと変わってきた、というか。最初はバカミスの短編しか書けなくて。ど素人の作家志望だったので。それで、たまたまメフィスト賞に受かっただけの話で。で、お笑いも好きなんですけど、別に感動的な話でもSFでも何でも面白いものなら好きなので。だんだんバカミス以外も書けるようになってきたから、書いているのかな、という。

清涼院: 『六枚のとんかつ』でデビューされた時には、どういうお気持ちだったんですか？
この感じで自分は一生、バカミスを書いていくのかな、とか。それとも、こんなことはずっと
できないから、変えていきたいという願望のようなものもあったのですか？

蘇部: まさかデビューできるとは思わなかったの。いきなりデビューしたら、その瞬間、ネ
タ切れになって（笑）。

清涼院: え、いきなり1作目でネタ切れになったんですか！？（笑）

蘇部: そうですね。で、バカミスの短編でクオリティの高いものを量産するというのは、ま
あ、不可能で。

清涼院: 無理ですよ。思いつかないですからね、ふつうは。

蘇部: うーん……だから、それでまあ、短編が好きで、『世にも奇妙な物語』とかが大好き
で。『世にも奇妙な物語』は、ブラックなオチのやつが多くて。それは「六とん」シリーズの
ノン・シリーズの短編につながる場所があるんですけど。『世にも奇妙な物語』には、たま
にロマンティックな話もあったりして。

清涼院: あー、なるほど。

蘇部: で、「過去からの日記」という時間SFの話があって、それがブレイク前の蒼井優（あ
おい・ゆう）と西島英俊（にしじま・ひでとし）が出ていて。それが大号泣するくらい感動し
て。でも、噴飯（ふんぱん）もののラストだったので、「これはちょっと自分で時間SFを書
かない」と思って書いたのが、「きみがくれたメロディ」で。

清涼院: あー、そうだったんですか。

蘇部: それが私の短編ではいちばん評判が良くて、清涼院さんに英訳していただいて。

清涼院: あれ（英語名「Your Melody」）は本当に、最高に感動しますからね。でも、そんな裏
事情があったんですね。

蘇部: そうですね（笑）。

清涼院: ご自身の（「過去からの日記」への）不満を解消したかった、というか。

蘇部: そうなんです。最後が、ものすごくご都合主義で（笑）。今までの涙をどうしてくれる
んだ、みたいな。

清涼院: 「きみがくれたメロディ」は、着地まで見事ですからね。

蘇部: で、書いてみたら、「あー、俺は時間SFを書けるんだ」となって。時間SFを書いてい
ると、主人公が過去に戻って、いろいろ何かをやっても、結局、最初とあまり変わらない、と
いう。それは、「やっぱり運命だったんだ」みたいなところがあるんで……。

清涼院: なるほど！ めちゃめちゃ納得しました、今。

蘇部: なんとなく、運命的な話が多くなったのかなー、という気がしますね。

清涼院: 今、ちょうど15分なので、あと5分くらいあります。5分かけて、まとめに入って
いきたいと思います。そうして今、お話を伺うと、けっこう必然的だったんですね。蘇部さん

の中で、すごく明確だった、というか。そこまでハッキリ転機があったのは、わからなかったです。きっかけというか。

蘇部: 恋愛小説も、海外のラブコメの映画とか好きなんですけど、恋愛ものでいちばん好きなのは、主人公の男女が出逢って恋に落ちるまでの話がいちばん好きなので。女性作家さんの恋愛小説だと、出逢って恋に落ちて、そのあとのどろどろが本筋なんだけど（笑）、私はあの、出逢って恋に落ちるまでが好きで。そういうのはやっぱり、結局、運命で出逢ったんだろうな、ということになるんで、運命的な話が多くなったんですよ。たぶん。

清涼院: でも、ほんとに、その方向性に特化していっているような感じですよ。作品で見ても、以前はちょっとずつ（運命や感動の要素が）混ざり始めていたのが、運命や感動ばかりというか、そちらに専念されているような感じになったじゃないですか。僕の印象としては、最近の10年間の作品でも、サプライズとかユーモアは健在なんですけど、それをかき消すほどのこの運命と感動の重要度というか。サプライズはあったりするのですが、それを超えるお話としての感動とかが重視されている気がして。同じ書き手として、そこが興味深くて。

蘇部: まあ、結局、そういうのが好きなんだろうけれど、まとめに入ると、そういう作品を書いているにしても新作が出しづらいので。だから、ショートショートの可能性はあるな、というのはわかったの。そうなるややっぱり、オチのあるお笑いのほうがいいのかな、というのは感じていて。自分の好きより、やっぱり出して売れるほうを選択すべきだというのは、ほんとに思っていて。だから、これからはちょっとお笑いでいこうかな、という。

清涼院: おー、これは、すごい発表ですよ。お笑い蘇部健一さんの復活という、これはかなり大発表な感じですよ。蘇部さんは笑いを封印されたような印象が、読者のあいだではあって。お笑いの蘇部健一さん待望論というのは、ずっとありますから。

蘇部: いやもう、出せなかったら感動ものをいくら書いても仕方ないんで。

清涼院: 確かに、ショートショートで感動させられないですもんね。数ページで感動というのは、無理ですよ。

蘇部: うーん……いや、それは、できないことはないと思うんですけど、お笑いとお笑いのオチのほうが、簡単は簡単です。

清涼院: オチが決まりそうな感じはしますね。元々、そっち系もお好きだったんですか？

蘇部: そうですね、うん。

清涼院: そうかー……いや、それはすごい楽しみになってきましたよ。蘇部さんのまた「ぼやき」を聞けるのかなと、そういう期待もあったんですが、「ぼやき」どころか、すごくポジティブで。

蘇部: やっぱり、前向きに生きていかなきゃいけないんで（笑）。

清涼院: キャスパで、こんな蘇部さんは初めてじゃないですかね。初の蘇部さんですよ、これは。

蘇部: 映画『バック・トゥ・フューチャー』のPart 3で、「未来は自分の手で切り拓くものだ」というドクのセリフがすごく好きなので。

清涼院: あー、いいですね。

蘇部: てめー（自分自身）で未来を切り拓かなきゃ仕方ないだろ、と。

清涼院: めちゃめちゃいいお話ですよ。蘇部さん、あと1分くらいなんですが、何かお話ししたいことがあれば。

蘇部: いやもう、お笑い1本でいくんで。もう大丈夫です（笑）。巻いていただいて。

清涼院: ほんと、いいお話を聞けましたよ、今日は。蘇部さん、ほんとに、ありがとうございました。来年、ショートショートのお笑いを楽しみにしていますから。また本が出たら教えてくださいね。

蘇部: わかりました。はい。

清涼院: では、来年も楽しみにしていますということで、ありがとうございました！

蘇部: ありがとうございました。

7. 藤枝暁生さん（酒場本&英語本 著者）

本日の予定

1. Opening
～清涼院流水（The BBB 編集長）ご挨拶
2. エージェント工刀さん（The BBB 校正責任者）
3. 坂嶋竜さん（評論家）
4. 秋月涼介さん（作家）
5. 真山知幸さん（偉人本&名言本 著者）
6. 蘇部健一さん（作家）
7. 藤枝暁生さん（酒場本&英語本 著者）
8. 積木鏡介さん（作家）
9. The BBB 10周年記念プロジェクト 発表
10. Q&Aセッション（延長の可能性あり）～Ending

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 続いては、藤枝暁生（ふじえだ・あきお）さんですね。

藤枝: はい、こんにちは。

清涼院: こんにちは。では、スライドの次のページを、お願いします。

藤枝暁生 (ふじえだ・あきお)

2016年、『サラリーマン居酒屋放浪記』で著者デビュー。
本業が多忙な中、酒場本と英語本を次々に発表し、
評価を高め続けている。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: こちらが藤枝さんのプロフィール・ページになります。「2016年、『サラリーマン居酒屋放浪記』で著者デビュー。本業が多忙な中、酒場本と英語本を次々に発表し、評価を高め続けている。」画面左下にあるのが、そのデビュー作『サラリーマン居酒屋放浪記』。そのとなりが居酒屋本の第2弾、『サラリーマンのごちそう帖(ちょう)』。そして、あいだに本当は別の本があるのですが、去年(2020年に)出されたのが、この『TOEIC L&R TEST 上級単語特急 黒のフレーズ』。そして、今年(2021年に)出されたのが、『TOEIC L&R TEST 超上級単語特急 暗黒のフレーズ』ということになります。そして、忘れないようにお伝えしておきたいのですが、先ほど坂嶋さんコーナーでもお話が出ました。藤枝さんは今までキャスパは「ゲスト」という形だったのですが、藤枝さんも今年から正式にThe BBBの「キャスト」の一員となってくださったので、藤枝さん、ご快諾いただき、ありがとうございます。

藤枝: (画面にお辞儀しながら) こちらこそ。

清涼院: これからは、「キャスト」の一員として。特に何の特典があるわけでもないのですが。ただ、新刊を出された時に、The BBB公式ウェブサイトのトップページに掲載されるとか、藤枝さんのキャスト・ページが既にあると、著作リストも、日本語版と英語版で出させていただいていますので。読者の方がThe BBBサイトに来ていただくと、藤枝さんの著作リストを見やすくなりました、ということで。そして、去年出されたこの『黒のフレーズ』という上級者向けの単語本が、すごい反響があって。これは今、Amazonで100個以上のレビューがついて(2021年12月現在)、ほとんどが高評価です。さらに去年のキャスパでも予告していただいた『暗黒のフレーズ』が今年出ました。まず目を引くのは、ぱっと見で、2冊は似

ている表紙なんです、『暗黒のフレーズ』のほうが銀河みたいに星が散りばめられていて、すごい印象的ですよ、この表紙は。

藤枝: そうですね。あの一、スーパー・ブラックの下地は変わらないんですが、後ろに銀河のように星を散りばめた形にして、暗黒の宇宙をイメージしているんです。

清涼院: だから、2冊が並んだ時にインパクトがありますよね。

藤枝: そうなんです。この銀河の星みたいものがないと、2冊並んでいると、間違っ買われてしまうんじゃないかと。

清涼院: 確かに。

藤枝: ということがあって（笑）。なんか変えたほうがいいんじゃないかと。

清涼院: 最初、『暗黒のフレーズ』というタイトルを伺った時に、表紙をどうするんだろう？と、心配していたほどでした。で、これは、すごくうまいアイデアだなと。

藤枝: スーパー・ブラックより黒いものがないので、そうすると、「何かラメっぽいものを入れます？」と冗談っぽく編集者と話していたんです。そしたら、彼が「じゃあ、銀河にしましょうか」と。暗黒の宇宙だから、ということで決まったんですよ。

清涼院: これは、すごくいいアイデアだと思います。あと、『黒のフレーズ』が昨年かなり反響があった中で、『暗黒のフレーズ』を出される不安は、ありましたか？

藤枝: 不安は、なかったですね。去年もお話ししましたが、元々、この『黒のフレーズ』と『暗黒のフレーズ』というのは、1冊の本だったわけですよ。

清涼院: そうでしたね。おっしゃっていましたね。

藤枝: 厚い本になるので、それを上着のポケットにスッと入るようになるには、ある程度の薄さにしないとダメだということで。「2冊にしたいです」という話を編集者にしたんです。そしたら、「いいですね」という話になったんです。私は上下巻というイメージで2冊というお話をしたんですが、それだと面白くないから、「上級」と「超上級」に分けて、発売の時期を半年ずらしましょう、という提案がなされたわけです。なので、元々は双子だったんです。

清涼院: なるほど。

藤枝: ちょっと不安があったとすれば、ふたつに割って、ひとつは半年後という約束になったものの、売れなかった本の続編というのは、ありえませんから。そうすると、やっぱり1冊目を売らなきゃいけないので、1冊目のほうに、TOEICを学習している人たちが気づくようなアイ・キャッチングな単語を寄せないといけないわけです。かと言って、残ったものがカスだとか、そういうことじゃないですよ。残ったものも良い単語なんだけど、やっぱり目を引くものを1冊目の『黒のフレーズ』のほうに寄せないといけなかった、というところがあって。それで2冊目は趣向を凝らして、新しいことを考えなきゃいけなかったんです。

清涼院: 実際、出たあとの反響は、いかがですか？ Amazonなどで見ると、『暗黒のフレーズ』も、かなり好評なようですが。それは予想通りとか、期待通りだった感じですか？

藤枝: 手応えとしては、ほぼ予想通りですね。「暗黒」のほうも、たぶん、50件くらいレビューがついていて（2021年12月現在）。前作からほぼ半年遅れて出て、レビューが100件と50件だから、まあまあかなと。

清涼院: あれはねー、藤枝さんだけじゃなく、著者の方は皆さん、わかると思いますが、Amazonでレビューが100件つくというのは、そうないことなので。本当にその著者の一生に一度の代表作でそうなるかならないかという、すごい世界で。しかも、高く評価されているというのも、すごいことで。元々、セットの作品だったということはあるんですが、この2作品は本当に大成功したんじゃないかと思います。ですから、今後も楽しみになりますし。

藤枝: 特に2作目の「超上級」のほうは、チャレンジングなことをしているので。従来の単語本の常識ではないことを、やっていますから。そういう意味では、心配ではありました。

清涼院: そこは、攻められたわけですね？

藤枝: そうです。従来の単語本というのは、過去に試験に出た単語を載せるものなんですね。これは英検でもそうですし、どのテストだってそうなんですけど。この「超上級」のほうは、1,000個あるうちの100個は、まだ出ていない単語“未来語”と称して、「これから出ます」と、自分で選んだ単語を掲載したんです。これってチャレンジングだと思います。ちょっと保守的な出版社だったら、企画が通らないですよ。

清涼院: そういう意味では、うまく2部作としてそれぞれの役割があって、いいですね。段階を踏んでいっている、と言いますか。

藤枝: 苦しまぎれ感がなかったわけでもないんですが（笑）、うまくいったと思います。

清涼院: それで今日、実は、読者から藤枝さんへのご質問として、「酒場本と英語本では、どちらが大変ですか？」と、お聞きになりたい方がいらっしゃるようです。

藤枝: あー、どちらが大変かと言うと、英語本のほうが圧倒的に大変です。

清涼院: と言いますと？ やっぱり英文の精査や英単語のチョイスなどですか？

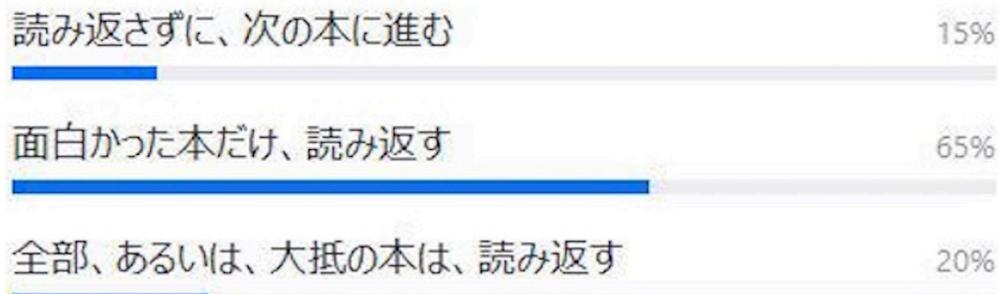
藤枝: それもありますし、英語本の場合は、ひとりで完結できないんですね。そこに編集者が入ったり、当然、ネイティヴが入ったりだとか。いろんなプレイヤーが出てきて1冊つくりまますから。酒場本の場合は、自分ひとりで書けちゃうんです。そういう意味では、気分が乗った時に書くということもできるし、ここはこう変えようということも、誰にも相談せずにできますし。そういう意味で、酒場本のほうがラクだと。

清涼院: 確かに、そうかもしれないですね。そのように本の話が出たところで、今日、藤枝さんから本に関するご質問をふたつ、いただいています。これは、ふたつ続けてやりたいと思います。ターニャ、まず藤枝さんのひとつめのご質問を、お願いします。

現在、投票結果（ホストによる共有）が表示されています

藤枝暁生さんからのご質問（1 / 2）

1. 一度読み終わった本を読み返しますか？（単一選択）*



清涼院: いかがですか、藤枝さん？

藤枝: いやいや、驚きましたね。読み返す方が、こんなに多いんだな、と。

清涼院: ご自身は、ちなみに、どれを選ばれましたか？

藤枝: 私は「面白かった本だけ、読み返す」です。その他大勢ですね。まあ、本の種類にもよるとは思うんですけどね。

清涼院: そうですね。

藤枝: 長編小説なんて、なんか読み落としたことがあるんじゃないかな、と気になって。すぐに読み返すわけじゃないんですが、時間をおいて読み返すわけです。

清涼院: 確かに、そういうのはありますね。

藤枝: あとは、やっぱり自分も年をとってきているので。若い頃、10代とか20代の頃に読んだものは、同じものを今読めば、感じ方が違うわけです。

清涼院: あと、けっこう忘れてますよね？ 誰でもそうだと思うんですけど。ディテールなんて、絶対に忘れてるとは思うんですよ。

藤枝: いや、最後まで気づかないことがありますよ。これ、読んだことあったんだ、という。

清涼院: それは面白いですね（笑）。読み返して最後まで気づかない、というのは。

藤枝: なるほど、そうなんだな……。

清涼院: こういうのは、本に関心ある読者とか著者の方たちが集まっている場で、こういう話が聞けるとするのは、いいことですよ。

藤枝: 今日には特に、本に関心のある人たちがばかり集まっているから、こういう結果なんだろうと思うんですよ。

清涼院: あー、そうか。それはありますね。確かに。

藤枝: そもそも、最後まで読み切らない人というのも、世の中にはたくさんいるわけで。

清涼院: いますね。そちらの人たちのほうが、多いと思いますよ。だって、ベストセラーでも読み終えた人は10パーセント以下という説もあるくらいで。

藤枝: 予想以上に、読み返す人が多いんだ、と。

清涼院: 今日は、いい読者さんが集まっていますね。

※このあと、藤枝さんからのご質問ふたつめがスタッフの手違いにより用意されていなかったことが判明し、藤枝さんからご説明いただくことに。

藤枝: 要は、本を買う時、今、画面に本が4冊映っていますけれども。本のタイトル、たとえば、『上級単語特急 黒のフレーズ』というのに惹かれて買うか。あるいは、この帯の「満点研究13年。本気の結実。」に惹かれるか。あるいは、小さく書いていますけれど、著者の名前で買うか。あるいは、ページを開いてみて、目次を見てから買うか。どんなふうな感じで皆さんは本を買うのかなど。そんなことが知りたかったんです。

清涼院: では、それは最後の質疑応答で時間をとって聞きましょう。気になりますから。出演者の方や参加者の方たちにもチャットで答えていただけますし。

藤枝: それは面白いかもしれないですね。

清涼院: 今で10分経過し半分くらいなので、スライドの次のページを、お願いします。

藤枝暁生 (ふじえだ・あきお)

◆ “宇宙一のTOEICer (トイーッカー)” 藤枝暁生さんのTOEIC武勇伝

- ・ 2007年3月の初受験から100回以上連続受験
(コロナ禍での抽選は除く)。
- ・ 暴漢に襲われ利き腕の右手を骨折するも、
左手で受験し自己ベスト更新。
- ・ 重要な商談で、連続受験記録が途切れるはずだったが……
「大分の奇跡」。



The BBE : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 今日の参加者は、たぶん小説ファンが多いと思うんです。ただ、藤枝さんといえば、TOEICの世界では知らない人がいないくらい有名な方なので。小説ファンは、それを知らないわけですから、ご紹介したら面白いんじゃないかと思ひまして。藤枝さんのTOEICでの活躍したいなと思ってつくったのが、このスライドなんです。まず“宇宙一のTOEIC (トイーッカー)”とあるんですが、僕が名づけさせていただいた藤枝さんの称号で。これは本当なんです。本当なんです、と言うのもおかしいんですけど(笑)。まず、TOEICというテストは世界170か国以上で開催されているんですが、日本が世界一なんです、規模としては。日本と韓国が同じくらいすごいので、日本と韓国セットで世界一と言えるんです。まあ、その中で、受験者としていちばんすごいと言われているのが藤枝さんなんですよ。だから「世界一」「地球一」とは言えるんですが、彼はその地球の規模をも超えているので、「宇宙一」と名づけさせていただきました。じゃあ、何が宇宙一かと言うと、ここに藤枝さんのTOEIC武勇伝が3つありまして。(武勇伝は)無数にあって数えきれないんですが、とりあえず印象的な3つを選びました。まず、すごいのが、「2007年3月の初受験から100回以上連続受験(コロナ禍での抽選は除く)。」コロナ禍でTOEICの試験が変わって抽選になって、さすがの藤枝さんでも抽選に落ちたら受けられない、ということになって。

藤枝: 抽選もことごとく当たったんですけど、1回だけ落ちちゃったんですよ(笑)。

清涼院: いや、それはそうなりますよ。逆に言うと、抽選がヤラセじゃない証拠ですね。

藤枝: そうですね。

清涼院: 藤枝さんクラスになると、TOEIC の運営本部がめっちゃめっちゃ知ってて、マークされていて。まあ、それは僕なんかもそうだったんですが。有名受験者になってくると、マークされちゃうんです。だから、藤枝さんの動向を TOEIC は把握しているんです。

藤枝: しょうがないですね。

清涼院: 僕は今日、改めてお聞きしたかったのは、藤枝さん、初受験の時から連続受験じゃないですか。

藤枝: そうですね、はい。

清涼院: 初受験の結果を見て次を受けるならわかるんですが、藤枝さんは初受験の結果が出る前から連続受験で (笑) 。毎回受けられたじゃないですか。

藤枝: それは、1 回受けて、やめるつもりだったんです。ほんとは。1 回受けて 700 点を獲れば、もういいや、と思って。ただ、その時点では結果は出ていないから、2 回目を申し込んだわけです。だから、700 点を獲っていたら、2 回目も申し込んだけど、スキップするつもりだったんです。

清涼院: なるほど。

藤枝: でも、獲れなかったんで、ずーっと続いちゃったわけです。いつまで経っても獲れないので。

清涼院: それで結果的には 100 回以上連続受験されて、今では本当に TOEIC 界の頂点に立たれているようなところがありますね。この未来は想像していなかったわけですね? 目先のことをやっていたら、ここまで来てしまった、と言いますか。

藤枝: いや、想像はしていません。

清涼院: 藤枝さんは、そういうタイプなんですか? ひとつのことをやり始めると、つきつめちゃう、と言うか。

藤枝: あー、そうですね。はい。

清涼院: でしょうね。そうじゃないと、そんなにいきなり続けられないですよ、ふつう。

藤枝: 100 回続けようなんて、とてもじゃないですけど、思っただけです。1 回で 700 点を獲って、TOEIC はやめよう、と思っていましたから。

清涼院: いやー、100 回というのは、ほんとにすごいことですよ。しかも、元々、TOEIC で講師をやっているわけではなくて、お仕事もありつつ、ですから。そう考えると、本当に驚異的で。

藤枝: 半分は意地で続けていたし、そのうち好きになってきたから好きでやっていたし。

清涼院: 意地というお話と関係するかもしれないですが、ふたつめの項目です。「暴漢に襲われ利き腕の右手を骨折するも、左手で受験し自己ベスト更新。」こういうこともありましたよね?

藤枝: 早朝に会社に通勤で駅まで歩いている時に、変な酔っ払ってる奴がいて。うまく避けたんですけど、そいつが通り過ぎてから戻ってきて、後ろから蹴飛ばしてきたんです。

清涼院: えー！

藤枝: うまく避けたんだけど、受け身を取る時に右手を着いちゃって。着いたところが、ちょうど縁石。TOEIC 的には curb (=縁石) ですね。

清涼院: うわー、痛いですね。それは……。

藤枝: そこにグッと右手を着いてしまって、複雑骨折しちゃったんですよ。で、まったく右手を使えない形になってしまって。

清涼院: 利き腕ですからね。

藤枝: テストまで2週間くらいあったのかな……ぜんぜん治らなくて、まだ腕を吊ってる状態だったので、どうしようもなくて。ペンを挟んで書いてみたりもしたんだけど、できないわけですよ、どうしても。で、ある時、会社で仕事していたんです。会社でどうしてたかと言うと、パソコンを横に置いて左手で打ってたわけですよ。その時に気づいたんですよ。あれ？ じゃあ、左手で受験できるんじゃないの？ と気づいて。その日から試験まで5日間くらいしかなかったのかな。

清涼院: マークシートを塗るだけだとしても、左手で塗るのは大変そうです。

藤枝: だから、それから毎日、左手でマークシートを塗る練習をしたんです。1週間くらい。そうしたら、なんとなく形になったので。ただ、右手は相変わらず吊っていて消しゴムは使えないので、a を塗っちゃったら、もう a のままで。塗り直すのはできないんですが。でもまあ、左手があるから大丈夫だということで。やった！ 受けられる！ と思って会場に行ったわけです。

清涼院: それで結果的に自己ベスト更新ですよ。

藤枝: 確か、900 何十点だか、いい点が獲れたんです。となりの人はビックリしてましたけどね。腕を吊ってますから (笑)。

清涼院: それは、そうですね (笑)。

藤枝: 「こいつ何？」みたいな話で (笑)。

清涼院: 藤枝さん、あと4分くらいなんですけど、3つ目のエピソードも、ぜひ教えていただきたい。 「重要な商談で、連続受験が途切れるはずだったが……大分の奇跡」。これは「だいぶん (大分)」じゃなくて大分県の「おおいた (大分)」ですね。

藤枝: これはね、日曜と月曜をまたいだ仕事が入ってしまって、試験を受けられないはずだったんです。だけど、あきらめきれなくて、大分に着いてからタクシーに乗って、大学が受験会場だったんですが、土曜日に会場に行ったんです。前泊で、もういましたから。自分で校門のところで写真を撮って、「しょうがないな。記録が止まっちゃったな」と思っていたんです。そのあと、仕事の人と昼食会をしていて。上着を脱いだ時にぼろっと落ちたんです、受験票が。「なんか落ちたよ。それ何？」と聞かれて、「実は受験票で……」と。そうしたら「その大学じゃないか」という話になって。連続受験の話もして、「本当は受けたかったんですが、今回は、こういうことで……」という話をしたら、そこの社長が、ちょっとお酒も入っていたんですが、「こんなところにいる場合じゃねーだろ！」と。

清涼院: ははは (笑)。

藤枝: 「お前は、そこへ行って試験を受けてこい！」と言われて。

清涼院: それは、すごい話ですね。

藤枝: 外で、その社長の若い衆が。若い衆って、ヤクザじゃないですよ (笑)。

清涼院: ヤクザじゃないですか! (笑)

藤枝: 若い衆が送るために待っていてくれて、車で試験会場に行ったんです。「この車で、すぐに行け!」と、乗せて行ってくれたんです。もうとても間に合わない時間だったんですが、前の日に受験会場に行ってるから、道を知ってたんです。

清涼院: それがなかったら、間に合わなかったけど……というのは、すごいですね。しかも、信号が青に変わったんでしたっけ?

藤枝: そうそう。元々、田舎 (いなか) だからそんなに信号はないんですが、3つくらいの信号がぜんぶ青に変わって、校門に着いた時には1分前くらいだったんです。あー、もうダメだな……と思ったんですけど、一応、教室まで走って行ったら、受付している人がふたりくらいいて、その後ろに並べたんです。それで受けられた、という。

清涼院: いや、それはすごい話ですし、それがあってのこの100回以上の重みというのは、めちゃめちゃありますよ。

藤枝: テストが終わったら、校門のところでその若い衆が待っていてくれて。

清涼院: 若い衆がね (笑)。

藤枝: そんなことがありましたね (笑)。運が良かった。

清涼院: ありがとうございます。あと1分半くらいあるんですが、藤枝さん、最後に今後のご予定を。これだけヒット作を出されたら次の依頼もあると思うんですが、差し支えない範囲で、お話ししたいことだけでも良いですし、「俺がいちばんやりたいことは、これなんだよ」みたいなことが、もしあれば。それを期待されている参加者もいると思いますので。

藤枝: 今後の予定というか、オファーをいただいているのがふたつあって。ふたつともTOEICの英語の本ですけど。ひとつは、あるスコアを目ざす、特化した対策本です。それを書いていて、これは今まで取引のなかった出版社なんですけど。それをもうすでにキックオフして、今もう問題をつくっている段階です。おそらく(2022年)10月に出すつもりなんですけれども、プラスマイナス1か月はありうるかな、と。9月に出る、あるいは11月に延びる、くらいはあるかなと。

清涼院: 楽しみですね。もう来年(2022年)には出るんですね。けっこうつくるのに時間かかりそうですね。

藤枝: あともうひとつは、この2冊、『黒のフレーズ』『暗黒のフレーズ』を出した出版社から、『暗唱特急』という仮の名前をつけている本を出す予定です。

清涼院: それはまた楽しみですね。「特急」シリーズが今、ヒットしているだけに。

藤枝: そうですね。それがたぶん来年の年末とか、あるいは（2023年）春先の3月くらいに出るのかなと。

清涼院: 再来年ですね。

藤枝: ひょっとしたら前倒しになる可能性もあります。

清涼院: それは楽しみです。

藤枝: あと、酒場の本を、どこからもオファーは来ていないんですが、酒場の本を書いています。それを1年後くらいに、できれば、どこかに持ち込んで出したいなと思っています。

清涼院: そうですね。英語本のヒットが続いているだけに、僕としても酒場本を期待したいですし。The BBBでも、いつも「酒場本と英語本の藤枝さん」と、ご紹介していますので。酒場本の第3弾をぜひ期待したいなと思いますし、来年またぜひ、その近況をお聞かせいただきたいです。来年は形になっていることを、本当に期待しています。

藤枝: 一応、「二刀流」ということになっているので（笑）。

清涼院: あ、そうですね！ 確かに（笑）。では、藤枝さん、よろしいですか？

藤枝: はい、結構です。

清涼院: 貴重なお話を、ありがとうございました。

藤枝: こちらこそ、ありがとうございました。

8. 積木鏡介さん（作家）

本日の予定

1. Opening
～清涼院流水（The BBB 編集長）ご挨拶
2. エージェント工刀さん（The BBB 校正責任者）
3. 坂嶋竜さん（評論家）
4. 秋月涼介さん（作家）
5. 真山知幸さん（偉人本&名言本 著者）
6. 蘇部健一さん（作家）
7. 藤枝暁生さん（酒場本&英語本 著者）
8. 積木鏡介さん（作家）
9. The BBB 10周年記念プロジェクト 発表
10. Q&Aセッション（延長の可能性あり）～Ending

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: いよいよ出演者としては最後の方になりますね。積木先生、スタンバイは大丈夫ですか？

積木: はい。オーケーです。聞こえますかー？

清涼院: 聞こえます。まず、積木鏡介さんのプロフィール・ページです。

積木鏡介 (つみき・きょうすけ)

1998年、『歪んだ創世記』で第6回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。The BBBでは『都市伝説刑事』シリーズを発表し、カリスマ的な作風で海外読者にも熱烈な支持者を生み出している。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 「1998年、『歪んだ創世記』で第6回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。The BBBでは『都市伝説刑事』シリーズを発表し、カリスマ的な作風で海外読者にも熱烈な支持者を生み出している。」で、画面の下に表示されているのが「都市伝説刑事」シリーズで、左下が1作目の「メリーさんのメール」、これは無料でご提供しています。そして、右に並ぶ3冊が最新刊で、「学校の七不思議」3部作という最大の大作です。現時点で出ている作品としてはこれが最新刊なのですが、先ほどもお話ししましたように、「事件6」という完結編が既に完成してしまっていて、(2022年)3月末に刊行したいな、というスケジュールで進行中です。積木さん、本当に、完結編の刊行をお待たせして、すみません。

積木: あ、いえ。いつもお任せしていますので。

清涼院: ご理解いただき、ありがとうございます。積木さんはお話しすることも多いと思うので、まずスライドの2ページ目を、お願いします。

積木鏡介 (つみき・きょうすけ)

「この世界には“友達の友達”という摩訶不思議な奴らがいる。勘違いしている人が多いが、“友達の友達”は架空の存在などでは決してない。もし奴らが存在しなかったら世界中に日々生まれ、語り継がれる「都市伝説」も存在しないことになる。紛れもなく居る筈なのに、誰も出会うことができない。一体奴らはどんな存在なのか。」

積木鏡介「清涼院流水は21世紀の“ほらふき男爵”である!!」より抜粋
(『秘密屋文庫 知ってる怪』に巻末解説として所収)

“都市伝説の帝王” 積木鏡介が、
ついに、「友達の友達」のすべてを暴き尽くす!

『都市伝説刑事』シリーズ完結編「事件6 友達の友達」
2022年3月末刊行予定



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 画面の上に表示されている文章は、実は昔、僕が出した『秘密屋文庫』という文庫本がありまして、その解説を積木先生にお願いして書いていただいて。その解説がものすごく面白くて。中でも特に僕が印象的だったところを、引用させていただきました。これは積木先生に書いていただいた文章なので、ぜひ今日ご本人に読んでいただきたいなと思いました。積木さん、この引用部分を読んでいただけますか。

積木: はい。では、読みます。「この世界には“友達の友達”という摩訶不思議な奴らがいる。勘違いしている人が多いが、“友達の友達”は架空の存在などでは決してない。もし奴らが存在しなかったら世界中に日々生まれ語り継がれる「都市伝説」も存在しないことになる。紛れもなく居る筈なのに、誰も出会うことができない。一体奴らはどんな存在なのか。」

清涼院: ありがとうございます。やっぱり書いてくださった方に読んでいただくと、本当に迫力が違いますね。僕のこの『秘密屋文庫』というのは都市伝説をテーマにした本で、その中で「都市伝説というのは、“友達の友達”がつくっているんだよ」という話は書いていたんです。それで積木さんの解説を読んだ時に、この“友達の友達”という存在が、あたかもキャラクターのように生き活きと立ち上がってきた感じがして、ものすごく印象に残ったんですね。それがずっと頭にあって、The BBB をスタートさせていただき時にも、そういう話をして。

「僕は積木さんの都市伝説の考え方がすごく好きなので、それをテーマに書いていただきたいし、あの解説の“友達の友達”のようなエピソードを書いていただけませんか」というお話をミーティングでご相談して。そうして誕生したのが「都市伝説刑事」シリーズであり、その中で“友達の友達”という存在が非常に重要なラスボスとして出てきますよね、積木さん？

積木: というか、まあ、犯人ですからね（笑）。

清涼院: そうですね（笑）。犯人が“友達の友達”という称号なのが、すごくいいアイデアだな、と思って。いわゆる“友達の友達”は実体のない存在みたいに言われますけれど、「都市伝説刑事」シリーズは現実のミステリーですから、当然、犯人がいるわけで。その犯人に“友達の友達”という称号があると。それだけで、ミステリー・ファン、都市伝説ファンはワクワクしてしまいますし、画面の下にあるように、（2022年）3月末刊行予定の完結編、このサブタイトルが、ずばり「友達の友達」になるという。これは本当にキャッチーですね、積木さん。

積木: まあ、今日は“友達の友達”について語るということなので。

清涼院: そうですね。ご相談して、やはり“友達の友達”についてお話ししたい、ということになりました。

積木: いきなりなんですけどね。冒頭から。最近、見かけませんよね。“友達の友達”は。

清涼院: あんまり聞かないですよ、確かに。“友達の友達”は。

積木: われわれの時代なんかね、もう“友達の友達”だらけで。私の“友達の友達”がアルバイト先の某ハンバーガー・チェーン店に行くと、冷凍庫の中に猫の肉がいっぱい釣り下がっていたと。で、びっくりしていたら、店長が来て、「このことは誰にも言うな」と言われて、こづかいをもらったとか。あるいは、“友達の友達”で喫茶店でバイトしている奴の話で、「喫茶店って紅茶につくレモンは使い回してるんだってね」、とか。あるいは、レストランの定食につくパセリなんか、使い回してるんですね、みたいな話をよくするんです。“友達の友達”がそれを見たってことで。もちろん、こんなことしたら、アルバイトがぺらぺらしゃべりまくって、その店は潰れちゃいますよね。まあ、そんなあやしげな奴らが、われわれの周りに、いくらでもいた。ところが、個人的には、1980年代が始まったくらいに、替え歌で有名な嘉門達夫（かもん・たつお）さんでしたっけ。あの方がですね、「友達の友達」という歌を歌ったんですよ。「お前ら、そんな珍しい体験をする友達が、いっぱいいるわけねーだろ!」、と。最後は確か、「友達の友達は赤の他人じゃ」という終わり方をするんで。そのあたりから“友達の友達”の信憑性がなくなってきて。なんとなく、みんながそれを避けるようになってきたと。そんなような流れがあるんじゃないかな、と思っているんです。ただ、本当に“友達の友達”は、この世界から消えてしまったのか？ これはひとつの例なのですが、たとえば、最近聞いた話では、入れ墨をしている最中に植物人間になった人がいると。首の周りから背中にある脳につながる神経を切ってしまったためらしい、とか。あるいは、鍼灸（しんきゅう）の治療中に打ちどころを間違えて肺が爆発した人がいるらしい、と。いずれも「医療関係者から聞いた話」とのことなんです、こんなことを医療関係者が言うわけないですよ（笑）。

清涼院: そうですよ（笑）。

積木: 当然、実際には「私の友達が医療関係者かせ聞いた話」でしょう。まあ、“友達の友達”ですよ。

清涼院: なるほど。だから、名前が変わっている、ということですね。昔は“友達の友達”と言っていたのが、今は「友達の医療関係者」みたいな。

積木: 「友達の誰か」に聞いた話ですね。ちょっとひとつ、海外の面白い例をご紹介しますもよろしいでしょうか。

清涼院: はい、もちろん。

積木: これ、ベトナムで2005年の9月から11月にかけて起こった事件なんです。田舎だと思うんですがね。「人喰いババア」の噂というのが飛び交ったんです。これはですね、このお婆ちゃん、学校の校門の前に出現して、生徒らを次々に食べると。当然、荒唐無稽（こうとうむけい）な話ですよ。最初は誰も相手にしなかったんですが、この噂が広まって、11月くらいには、ある学校で、学校の中を清掃していたお婆ちゃんが、生徒たちに「あ、人喰いババアだ！」と石を投げられて、殴る蹴るの暴行を受けた事件まで起こっています。なぜこんなくだらない噂が大きくなってしまったか。そのひとつの原因には、こんな噂が流れたんですよ。「人喰いババアのニュースは本当だよ。だって、夜のニュースでやってたもん」という噂が広まったんです。当然、これにはテレビ局も黙ってられないんで、正式に「そんなニュースを流したお婆えはありません」と釈明して、騒ぎはおさまったんですが、ちょっと考えてみてください。たとえば、小学生のA君が「人喰いババアの話は本当だよ。だって、ニュースで観たもん」と言ったとして、観たわけないですよ。当たり前ですが、そんなニュースはやっていないんだから。「A君、きみは本当にそのニュースを観たの？」と聞けば、彼は、こう答えるでしょう。「いや、B君がニュースで観たと言ってたよ」、と。次にB君に聞きます。B君も観てるはずないですよ。 「いや、違うよ。C君がニュースで観たって」。C君に聞くと今度はD君になって、E君になって……いつか消えちゃうでしょうね。これが現代版の“友達の友達”なわけですよ。もうひとつご紹介したいんですが、これは日本の話です。

清涼院: はい。

積木: 2007年の4月17日にですね、フジテレビ系の『ごきげんよう』……年配の方はご存じだと思うんですが、昔、お昼に小堺一機（こさかい・かずき）さんの司会で。

清涼院: あー、やりましたね。

積木: トーク番組ですね。今はやっていませんが、長寿番組で。この時、女優の川上麻衣子（かわかみ・まいこ）さんが来られた時、こんな話をしているんです。川上さんの友人の話として。その友達がどうしてもトイプードルを欲しかったんですが、高くて買えなかったんです。ところが、ネットを見ていたら、手頃な価格で売っているトイプードルを発見して、さっそく注文。まあ、それで届いたわけですが。しばらく飼っていても、エサは食べないし、元気はなくなる一方。不審に思った麻衣子さんの友達が獣医さんに見せたところ、獣医さんがびっくりして、「あなたには、これがトイプードルに見えるんですか?」。当然、うなずきますよね。すると獣医は、「これ、仔羊ですよ」と。要するに、だまされて、つまらないものを買わされた、という話だったんですよ。まあ、これは日本でもネットでは少し話題になったんですが、実は、それにとどまらず。私は知らないんですが、川上麻衣子さんという方は、海外のドラマにも出られているそうなので、海外に飛び火しちゃったんです。

清涼院: あー、なるほど。

積木: イギリスの大衆紙の『サン』が、これを採り上げて、「驚いた。日本人にはプードルと羊が見分けられないのか」、と。あげく、炎上して、有名なニュース大手のCNNでも採り上げられちゃったくらいの、いわば大騒動になってしまったんですね。

清涼院: それは大騒ぎですね。

積木: 結局、川上麻衣子さんは、のちに釈明しまして。「実は、この話、私が通っているネイルサロンのメイクさんから聞いた話で、メイクさんの友達の話なんです」と。完全に“友達の友達”ですよ、これは。で、このあたりでもう気づいた人がいるかもしれませんが、今の話、都市伝説研究家で有名なハロルド・ブルンヴァンも本の中で紹介している、有名なアメリカの都市伝説「メキシコから来たペット」の焼き直しなんです。

清涼院: ありましたね。

積木: 知らない方のために申し上げますと、あるアメリカ人のマダムが、メキシコに行った時に小さな野良犬を見つけたと。可愛いので、「どうしても飼いたい」と言って、こっそり持ち帰ったと。あとは似たような話で、エサも食べないし、日々、元気がなくなっていく。思いつめてマダムが獣医さんに見せると、獣医さんはびっくりして、「あなたには、これが仔犬に見えるんですか？」当然、マダムは、うなずきますよね。すると、獣医さん曰（いわ）く、「あなた、これ、メキシコのドブネズミですよ」というオチなんですよ。

清涼院: お話の構造が、まったく一緒ですね。

積木: ご紹介した通り、確かに、われわれは「友達の友達」という言葉は使わなくなりました。しかし、あいも変わらず“友達の友達”は正体を隠して、われわれを取り巻いているのですよ。

清涼院: 積木さん、ここでちょうどいいところなので、質問いきましようか。

積木: そうですね。質問をお願いします。

清涼院: 積木さんからのご質問を、では、お願いします。

積木: (画面に表示された質問を見て) ここで言う「友達の友達」は、もちろん、「あなたの知り合いの知り合い」という意味ではありません。

清涼院: はい、そうですね。

積木: 噂の情報の発信源、発信者としての「友達の友達」という意味です。

積木鏡介さんからのご質問

1. あなたは「友達の友達」と会ったことがありますか？（単一選択）*



清涼院: 積木さん、この結果は、いかがですか？

積木: 「友達がいない」が11パーセントか。

清涼院: これは、でも、入れる人はいるでしょう。ネタとしても。ネタか謙遜かは、わかりませんが……。 「（会ったことが）ある」というのも気になりますね。

積木: 「ある」という方、いましたもんね。

清涼院: 今の文脈では「友達の友達」というのは、噂の発信源みたいな感じですが。ただ、小さなスケールでは、もしかしたら、ありうるかもしれないですね。壮大な世界でなければ。

積木: では、話を続けてよろしいでしょうか。

清涼院: どうぞ。

積木: だいたい話し尽くしましたが、「都市伝説刑事」シリーズでも、ある意味では“友達の友達”が大きなテーマになっているわけです。未読の方もいらっしゃると思うので、詳細は避けさせていただきますけれども。たとえば、第1話の「メリーさんのメール」では、重要な登場人物のひとりである潮崎彩乃（しおざき・あやの）が、主人公の小林に都市伝説に対するファンタジーな想いを語る場面があるんですが、これはそのまま彼女の想う“友達の友達”の姿。あるいは、“友達の友達”論、“友達の友達”考と言えるものになっていると思います。

清涼院: そこは僕もすごく好きなところで。「都市伝説刑事」シリーズの魅力は、その場面に象徴されるように、積木さんの世界観が出てくるんですよね。

積木: いや、あれは潮崎彩乃の世界観です（笑）。

清涼院: もちろん、潮崎彩乃の世界観であり、また、ほかの登場人物の世界観があり、それらを総合する世界観としての魅力というのは、すごく感じますね、僕は。

積木: ありがとうございます。ほかに、第5話の「学校の七不思議」ではですね、学校の七不思議が都市伝説のように自然発生的に生まれたものではなく、ある人物が意図的に広めたものという設定で描いているんですが。この怪人物なども、ある意味では“友達の友達”なわけですよ、言ってみれば。

清涼院: そうですね。

積木: まだ刊行されていない最終話では、「都市伝説刑事」シリーズの、いわゆる連続都市伝説殺人事件の真犯人が、なぜ“友達の友達”になってしまったのか。そして、黒衣を身にまとった人物が、なぜ“白い友達”なのか。白衣の人物が、なぜ“黒い友達”なのか。それも含めまして、最終的には、みずからが“友達の友達”になってしまった、都市伝説になってしまった人間の姿を描いていければいいかな、とは思っております。ちょっと早いですが、だいたい内容的には、こんなところですよ。

清涼院: 「都市伝説刑事」シリーズをずっと読んでこられた方には、毎回冒頭で“黒い友達”と“白い友達”という謎の人物が謎めいた会話をしていきまして、それがまず、ものすごく気になるんですね。導入部として。それがどうも“友達の友達”と関係しているらしいということがわかってきて。今まですごくもやもやしていたところが、シリーズの中心の謎になっていて。これが本当に最終話の「事件6」では見事に明快に解決します。そういう意味では、これまで読んでくださった方には本当にご期待いただきたいです。そして、スッキリまとまっているんですよ。

積木: ありがとうございます。

清涼院: 「事件5」が超大作だったじゃないですか。3分冊にするほどの。だから僕は、もしかしたら「事件6」もすごく長いのかなと思っていたら、短いわけではないですが、長すぎず、なおかつ今までのシリーズを綺麗に畳（たた）んでこられたので。これは本当に、シリーズを完結させるために徹したような、理想的な完結編だなと思いました。なおかつ、まだ言えないのですが、最後には、読んだ人だけのごほうびと言いますか、今後の積木さんの活動に期待したくなるような終わり方でもあります。本当に反応が楽しみです。「都市伝説刑事」シリーズは、海外の読者からも「早く続きを読ませてくれ」というメールが来たりすることもありますので。たぶん、海外にも、ハロルド・ブルンヴァンの著作とかで都市伝説ファンの方もいらっしゃるでしょうし。それこそ「都市伝説 × ミステリー」というのは、万国共通のキャッチーなテーマじゃないかな、と思うんですよ。

積木: あまり関係ないんですが、“友達の友達”の最初の例は、おそらく1960年代か1970年代くらいじゃないかなと思っています。その時、ちょうど、当時のトップ演歌歌手だった水前寺清子（すいぜんじ・きよこ）さんが「友達の唄（うた）」という曲を歌っているんです。その歌詞がすごくて。友達の友達は、みんな友達だ、というような内容で。友達の友達の友達も、みんな友達だと（笑）。

清涼院: ははは（笑）。

積木: まさに、“友達の友達”の全盛時代であったと思ってるんですけどね（笑）。

清涼院: 今日、そのご指摘が面白かったですね。先ほどの嘉門達夫さんもそうですけれど、曲の歌詞に、そういう都市伝説の真実がけっこう含まれていた、というのが、めちゃめちゃ面白いなと思って。

積木: やっぱり、“友達の友達”は赤の他人ですよ（笑）。

清涼院: 語り始めるとキリがないですけど、積木さん、今まで都市伝説のストックがたくさんありましたけれど、「都市伝説刑事」シリーズ完結となる時に、今まで書きたかったことの何パーセントくらい書けたんですか？ 当然、100パーセントではないと思いますが。今までご自分が小説で書きたかった都市伝説の、どのくらいを書かれたんですか？

積木: それはちょっと難しいですね。

清涼院: 難問で、答えようがないでしょうか。

積木: 集めた都市伝説の数は、もう、ぜんぜんその中の1パーセントも使っていないと思うんですが。小説のテーマとなると、また難しいですからね。

清涼院: では、質問を変えまして、やりきった感というのは、どのくらいあるんですか？ これでやりきって完全燃焼した、もう書きたくない、というお気持ちなのか。それとも、まだまだ俺は書き足りない、というお気持ちなのか。

積木: それは、ぜんぜん書き足りないですよ（笑）。

清涼院: それは頼もしいですね。読者としては今後も楽しみなお言葉が聞けて。積木先生が今回の完結で筆を擱（お）かれたら、がっかりする人がいっぱいいますから。では、今後にも期待させていただいてよろしいですね？ 積木さん、あと1分くらいなので、最後に何かあれば、お願いします。

積木: だいたいもう言い尽くしましたけどね。まあ、一見、消えてしまった“友達の友達”が、まだ皆さんの心の中に残っているということをおわかっていただければ、という気はします。以上です。

清涼院: よろしいですか？

積木: はい。

清涼院: ありがとうございます。

積木: ミュート（マイク OFF）にしまーす。

清涼院: では、スライドの次のページを、お願いします。

9. The BBB 10周年記念プロジェクト発表

本日の予定

1. Opening
～清涼院流水 (The BBB 編集長) ご挨拶
2. エージェント工刀さん (The BBB 校正責任者)
3. 坂嶋竜さん (評論家)
4. 秋月涼介さん (作家)
5. 真山知幸さん (偉人本&名言本 著者)
6. 蘇部健一さん (作家)
7. 藤枝暁生さん (酒場本&英語本 著者)
8. 積木鏡介さん (作家)
9. The BBB 10周年記念プロジェクト 発表
10. Q&Aセッション (延長の可能性あり) ～Ending

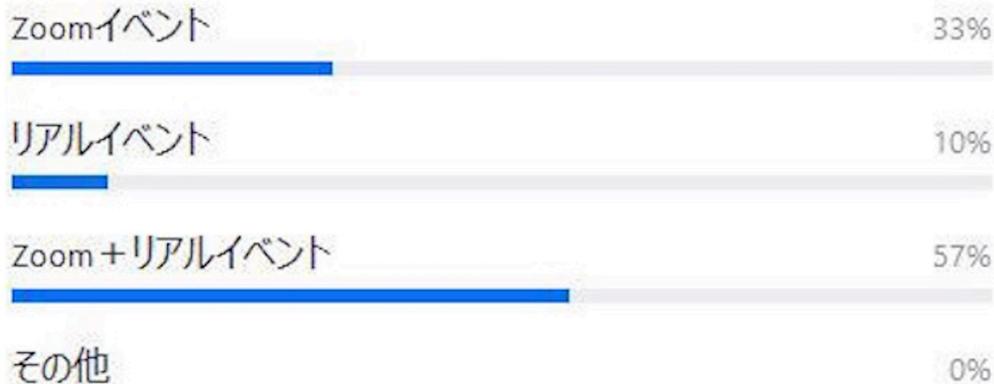
The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 最後に衝撃の10周年記念プロジェクトを発表したいのですが、その前に。僕から皆さんへのご質問の、ひとつ目をするのを忘れていました。それは「ワクチンは何を打ちましたか?」というどうでもいい内容でしたので飛ばしまして、ターニャ、「清涼院流水からのご質問」のふたつ目を表示していただけますか?

現在、投票結果（ホストによる共有）が表示されています

清涼院流水からの質問（2 / 2）

1. 来年の「Cast Party 2022」は、どの形式が良いですか？（単一選択）*



清涼院: Zoom イベント、リアルイベント、Zoom+リアルイベント……このあたりになりそうですね。来年については、正直、今現在は何も決めていないです。ただ、くり返し申し上げている通り来年は10周年で、10周年にキャスパを開催しないというのは寂しいので、おそらく、よほどトラブルがない限りは来年も開催すると思います。ただ、どういう形にするかというのは、本当に、コロナ次第です。コロナは今、落ち着きつつあるようにも見えますし、まだまだこれからという感じもしますし。まあ、ワクチンとかが普及して、コロナがおさまってくれば、もしかしたら、来年、リアルイベントを開催できるかもしれないし。一方で、Zoom イベントの良いところは、やっぱり、地方からなかなか東京に来られない方も気軽に参加していただける、ということなので。来年、リアルで開催できる場合にも、Zoom と組み合わせてやるとか。まあ、Zoom なのか YouTube なのか Skype なのか、わからないですけど。なにかヴァーチャルでも参加できるような形にはしたいな、と思っています。というところで本編は以上で、最後に Q&A セッションがあるんですが、このあと、いよいよ本日のメインです。The BBB 10 周年記念プロジェクト発表を行いたいのですが、これはそんなに長くないです。あっという間に終わっちゃうことなので、一応、前置きから始めたいと思います。これは僕が時間を取ってお話しますので、皆さん、何かちょっとでも感じていただけることがあったり、応援したいなという気持ちを持っていただけた場合は、キャスパの最中からでもいいので、ツイートなどの SNS で応援していただくとか。それはキャスパ終了後でもぜんぜん構わないので。僕にとっては、この10周年記念プロジェクトは本当に大事なことだと思っていますので。今から音楽もかけて、自分なりに気持ちを込めて発表したいと思っています。

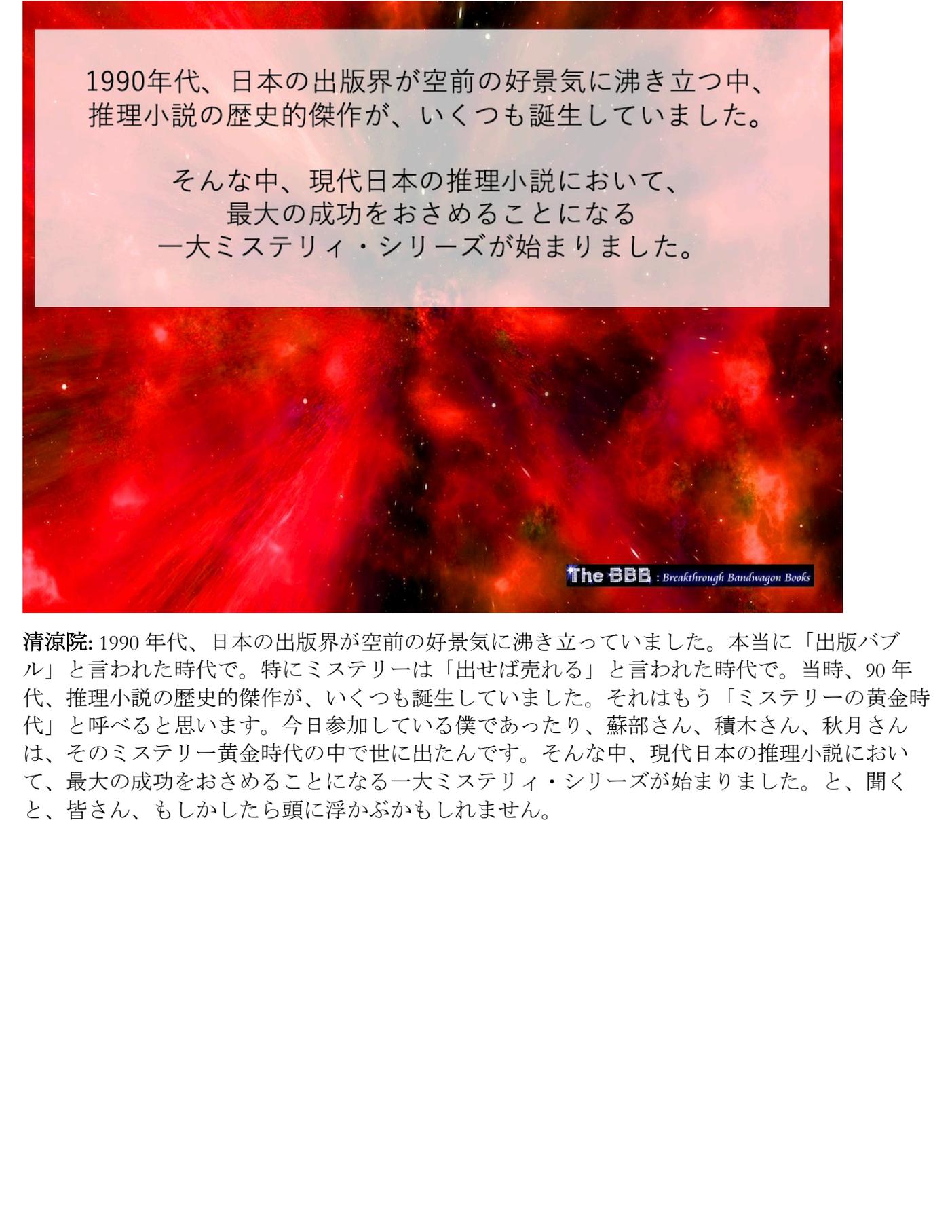
2012年12月1日、The BBB創設。

それから10年が経過した、2022年——。

“ The BBB 10周年記念プロジェクト ”
が始動します。

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 今日、冒頭からお話ししていますように、2012年12月1日にThe BBBは創設しました。ですので、来年(2022年)、10周年となります。10年というのは本当に長い時間で、皆さんも、この10年間、さまざまなことがあったと思います。忘れもしない。2011年には東日本大震災があった年なんですね。それもあって、皆さん、10年というのを意識しやすいと思うんです。あの震災から10年か。本当に皆さんがそれぞれ、さまざまな経験をされてきて、もちろん、The BBBも10年やってきて、さまざまな経験をして、200作品以上を刊行してきて。その先に今、必然的なThe BBB 10周年記念プロジェクトにたどり着きました。それを今からご紹介したいと思います。スライドの次のページをお願いします。



1990年代、日本の出版界が空前の好景気に沸き立つ中、推理小説の歴史的傑作が、いくつも誕生していました。

そんな中、現代日本の推理小説において、
最大の成功をおさめることになる
一大ミステリィ・シリーズが始まりました。

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 1990年代、日本の出版界が空前の好景気に沸き立っていました。本当に「出版バブル」と言われた時代で。特にミステリーは「出せば売れる」と言われた時代で。当時、90年代、推理小説の歴史的傑作が、いくつも誕生していました。それはもう「ミステリーの黄金時代」と呼べると思います。今日参加している僕であったり、蘇部さん、積木さん、秋月さんは、そのミステリー黄金時代の中で世に出たんです。そんな中、現代日本の推理小説において、最大の成功をおさめることになる一大ミステリィ・シリーズが始まりました。と、聞くと、皆さん、もしかしたら頭に浮かぶかもしれません。

累計1,700万部突破

MORI Mystery

その原点にして、金字塔

「メフィスト賞」は、ここから始まった。

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 画面に出ました。累計 1,700 万部突破。MORI Mystery。森博嗣さんの書かれるミステリは「森ミステリ」と言われています。その原点にして、金字塔と呼ばれる作品があります。「メフィスト賞」は、すべて、ここから始まったんですよ。では、次のページをお願いします。

英語版『すべてがFになる』

(森博嗣 著 × 清涼院流水 訳)

2022年、The BBBより刊行決定!!

「世界にあまり例のないものを書こうと思った」
森博嗣

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: これが The BBB 10 周年記念プロジェクトです。英語版『すべてがFになる』。2022年、The BBB より刊行決定。そして、この英語版『すべてがFになる』について、森博嗣さんからお言葉をいただきました。「世界にあまり例のないものを書こうと思った」というメッセージで、森さんからエールを贈っていただきました。これが The BBB 10 周年記念プロジェクトです。まあ、皆さんがどういう反応を示されるかわからないんですが、ちょっと聞いてみたいと思います。まず、蘇部さん、お聞きになっていませんか？

蘇部: はい！

清涼院: 蘇部さん、いかがですか？

蘇部: いやー、すごいですね (笑)。

清涼院: 森博嗣さんが第1回メフィスト賞で、僕が第2回、蘇部さんが第3回ですから。で、今日は蘇部さんから将来に希望が持てるお話を伺えて嬉しかったんですが、The BBB としても、いよいよ『すべてがFになる』を英語にする、ということで。われわれメフィスト賞作家というのは、この作品がなければ存在していないので。

蘇部: そうですね、うん。

清涼院: これが出ていなければ、僕たちはいない、というくらいの作品なんです。

蘇部: ええ (笑)。

清涼院: それを The BBB から出せることになったというのは、本当に大きくて。これは、講談社がもちろん翻訳の権利を握っていて、交渉は大変だし、実現は不可能だと僕も思っていて。森さんともご相談しながら、2年くらいかけて講談社と交渉して、ようやく OK をいただいた、というところです。それがちょうど The BBB の 10 周年と重なったので、10 周年記念プロジェクトにさせていただこうと思いました。積木さん、いかがですか？ 積木さんも、初期メフィスト賞受賞者として。

積木: 感動ものですね、これは。

清涼院: そう言っただけだと、嬉しいですね。積木さんも、ほんとに初期の初期ですから。当然、森博嗣さんのご活躍を見てこられたでしょうし。それがなければ、積木さんも今日ここにいらっしやらないわけで。

積木: ははは (笑)。

清涼院: こういう場には少なくともなっていない。キャスパも The BBB も存在しないわけですから。だから、ほんとに初期メフィスト賞の積木さんにも喜んでいただけると嬉しいです。では、メフィスト賞の秋月さん、いかがですか？

秋月: いや、すごいですよね (笑)。あの時のことを思い出す、というか。ほんとに、メフィスト賞に応募するために、「これを読まなくては」と思った本が英語になるというのは、すごいことだと思います。

清涼院: 秋月さんは、真っ先にこの作品を読まれてたんじゃないですか？

秋月: そうですね。『すべてが F になる』も『コズミック』もそうですし。メフィスト賞に応募するために、と思って読んだ本の中のうちのひとつですね。

清涼院: そうですよ。そういう意味で、本当に意味が大きいと思います。坂嶋さんもメフィスト賞内定までいきましたけれど、坂嶋さん、いかがですか？

坂嶋: いや、びっくりです、それは。もちろん、評論賞も含めて、(メフィスト賞は) 僕の原点です。雑誌『メフィスト』は、うちにぜんぶ揃えましたからね。

清涼院: そうですね。ぜんぶ、経緯を知ってますもんね、坂嶋さんは。

坂嶋: いやー、ほんと、すごいことだな……と。

清涼院: 歴史を知っている人ほど重みがある、と言いますか。知らない人にとっては、「はあ？」と言われるようなことなんですけど (笑)。まあ、リアルタイムで知っている人ほど、たぶん、感じる場所があるんじゃないかな、と思います。では、工刀 (くぬぎ) さん。工刀さん、当時はまだ海外ですかね？ 工刀さんは海外で生活されてきたので、あんまりピンとこないかもしれないですけど。

工刀: えっと、当時、既に日本にいました。でも、当時はゲーム業界にいたんで、あまり小説うんぬんというのは関わりはなかったんですけど。で、質問は、このプロジェクトに対する感想ですよ？

清涼院: そうですね。

工刀: いや、確かにあの、『すべてがFになる』という作品とか、メフィスト賞がなぜ存在するかとか、いろんなことを考えますと、十分にブロックバスター（＝強い影響を与える作品）だと思います。ですが、欲を言えば、清涼院流水先生の名前が左側にあるプロジェクトのほうが、もっと良かったかな、と。

清涼院: いえいえ、そんなことはないですけど（笑）。でも、そう言っていただけるのは本当に嬉しいです。ありがとうございます。

工刀: あくまでも、欲を言えば、の話なんで。清涼院流水先生がメインであるべきだと思っていますので。

清涼院: そんなことはないですが、とにかく、ありがとうございます。真山さんは畑違いですけど、なにか感じることはありますか？ 真山さん……。

ターニャ: 真山さんは、もう退室されました。

清涼院: ……では、最後、藤枝さん。何か感じられますか？ 藤枝さんは、小説をお好きじゃないですか。

藤枝: 私は恥ずかしながら、この本のほうを先に知って。森先生の名前をあとで知ったわけです。それほど、この本は有名だったから。

清涼院: そうですね。

藤枝: この何がすごいと言ったら、「現役の小説家が小説を英訳する」というところです。通常は、英訳者とか和訳者はいるわけだけれど、その人は小説家ではないから。必ずしも小説家が思ったような訳をつけられないはずなんです。でも、これは流水さんが英訳するから、たぶん、森先生が思ったような訳が、きつとつけられるんですよ。それが革命的なことです。

清涼院: そう、それは森さんも、おっしゃってました。そういうところで、まさに期待してください。それを指摘された藤枝さんは、さすがだなと思います。ほんとに、皆さん、コメントしていただいて、ありがとうございました。だいぶ時間もいい感じになってきたので、ここから質疑応答に入りたいと思います。スライドの次のページを、お願いします。

10. Q&A セッション（延長の可能性あり）～Ending

本日の予定

1. Opening
～清涼院流水（The BBB 編集長）ご挨拶
2. エージェント工刀さん（The BBB 校正責任者）
3. 坂嶋竜さん（評論家）
4. 秋月涼介さん（作家）
5. 真山知幸さん（偉人本&名言本 著者）
6. 蘇部健一さん（作家）
7. 藤枝暁生さん（酒場本&英語本 著者）
8. 積木鏡介さん（作家）
9. The BBB 10周年記念プロジェクト 発表
10. Q&Aセッション（延長の可能性あり）～Ending

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: あとはもう、時間のゆるす限り Q&A セッションをやって終わりたいな、と思います。まず、先ほど藤枝さんからのご質問で、スタッフの手違いで質問をご準備できていないものがありました。「本を何の基準で買うか」というご質問でした。たとえば、表紙で買うとか、著者の名前で買うとか、シリーズで買う、帯で買うとか、いろいろあると思います。皆さん、もし「私はこれで本を買います」というのがあれば、出演者の方だけでなく一般参加者の方もチャットに書き込んでいただきたいです。じゃあ、まず、質問者の藤枝さんは、何をいちばん基準にして本を買われるんですか？

藤枝: その時にもよるんですが、まず、ぱっと見て、表紙のタイトルとかで買っちゃうことも、けっこうあります。実を言うと。

清涼院: それは、やっぱりタイトルが大事なんですね？ 表紙の雰囲気だけじゃなくて。

藤枝: タイトルに何かビビッとくるものがあって買うんですよね。ぜんぜん知らない作家の本も、それで買います。

清涼院: やっぱり重要なんですね、タイトルは。坂嶋さんは書店員さんで、日々、たくさんの本を見てこられているじゃないですか。

坂嶋: まあ、でも、まずは見た目ですよ。第一印象が。

清涼院: やっぱり。

坂嶋: まあ、もちろん、気になれば、そこからあらすじとかも、いろいろ手に取って読んで。

清涼院: 見た目というのは、タイトルだけじゃなくて、パッケージング、装丁ですよ。

坂嶋: そうですね、はい。

清涼院: 蘇部さんは、けっこう読まれてると思いますが、いかがです？

蘇部: 私はまあ、とりあえず好きな作家を読んで。あとは、「このミス（このミステリーがすごい!）」の順位が正しいとは思わないですけど、まあ、めっちゃめっちゃ話題になれば。

清涼院: では、事前情報で買いに行かれる、という形ですね。

蘇部: そうですね。衝動買いはしないですね（笑）。

清涼院: 積木さんは、いかがですか？ 本を選ぶ時の基準は？

積木: まず、作家というのはありますよね。

清涼院: お好きな作家さんですね。

積木: ええ。あと、書評ですかね。タイトルで選んで、ひどいめにあった経験があるんで（笑）。表紙とかタイトルには、あまりだまされない……だまされない、というのは失礼ですけども（笑）。多く影響されないようにはなっていますね。本当に小さい時に嫌な思い出があったんで（笑）。

清涼院: あるでしょうね（笑）。秋月さんは、本選びの基準は何かありますか？

秋月: 私は、やっぱり作家さんで選ぶか、あと、クチコミとか書評で選ぶ時もありますし。本屋に行って何となく選ぶ時は、タイトルを見て、書き出しを読んでから決める、という時もあります。

清涼院: なるほど。工刀（くぬぎ）さんは、ちなみに？ 英語の本とかですか？

工刀: そうですね。高校とか大学の時代に読んだ SF 小説とかを例に取りますと、結局、今から思い出しますと、当時は英語がよくわからなかったもので、表紙で決めてました。あの『バトルフィールド・アース』も、実は、表紙に出ているあの上半身裸の金髪の兄（あん）ちゃんがありますよね。あれで買ったような気がします。

清涼院: ありがとうございます。続いて、事前に参加者の方からいただいたご質問があります。これは乃木口（のぎぐち）さんからですね。「今年読んだ本や観た映画で、良かったものがあれば教えてください」ということです。これは、今年読んだ本や観た映画で良かったものがあつた方、お願いします。ない、という方もいるでしょうし。坂嶋さんなどは、書店員さんで評論家ということで、かなりたくさんチェックされていると思います。逆に選べないですかね？

坂嶋: まあ、とりあえず先ほど挙げた陸秋槎（りく・しゅうさ）さんを除けば、さっき蘇部さんから『世にも奇妙な話』の話題が出ましたが、そのドラマ原作にもなった『あと十五秒で死ぬ』（榊林 銘 著／佐久間真人 画／東京創元社）が、僕の中で今年 1 番か 2 番かで悩んでる作品で。あと 15 秒で、ある女性が何者かに殺されて、いのちが喪われる 15 秒の中で何ができるかというテーマの短編集なんです。その短編がひとつと、あと、テレビドラマを観ていて、

「ああ、もうオチはわかりきっているな」と思って目を離した15秒のあいだに展開がとんでもなくなっていた。その展開を予想、推理するという、そういった15秒をテーマにした連作短編集があつて。

清涼院: それは面白いですね。



坂嶋: あとは、首が離れても生きていられる、という設定なんですけど、15秒で死んじゃう。だから、15秒以内に首を取って戻せば生きている、という。その中で首なし死体が見つかった、という短編集がすごい面白くて。

清涼院: それは明らかに面白そうですね。

坂嶋: 今のところ、オススメですね。今年は、それが1番かな、と思っています。

清涼院: ありがとうございます。ほかに「これ、良かったよ」というものがある方は、教えていただけますか。そこまで良いものがない可能性もあるんですよ。昔の名作も、さんざんありますからね。

積木: 個人的には、周木 律 (しゅうき・りつ) 先生の『楽園のアダム』というのが、かなり面白かったですね。



清涼院: どのあたりが面白かったんですか？

積木: それは言えません（笑）。読んでください、としか。

清涼院: ネタバレになっちゃうんですね（笑）。

積木: あと、すみません。私が言うことじゃないんですが、参加者の方たち、もっと積極的にチャットで言ってくださいよ。

清涼院: そうですね。良かった本とか映画を書き込んでいただいてもいいですし。

積木: もっと積極的にね。書き込んでほしいなー、と思っちゃいますが。

清涼院: なかなか遠慮してしまうんでしょうけどね、こういう時は。まあ、時間的には既にいい感じなので、質問が尽きた時点で Ending に入らせていただこうと思います。だらだらぼーっと待ってるのも、あれですから。ですので、質問のある方は、お早めをお願いします。ちょっと待ってなければ、もう Ending に入っちゃおうと思います。だいぶ時間も経っていますからね。

工刀: えっと、質問というのは、チャットでやる質問ですか？

清涼院: 何でもいいです。

工刀: では、私からひとつ。あの、秋月さんの作品で、作中にロックバンドが出てきますよね。Bashert (バシエルト) でしたっけ? Bashert が作中で楽器を演奏したりパフォーマンスを行うんですが、それが実際に聴ける日が来るんでしょうか?

清涼院: あー、それは特典で考えています。ただ、わからない人には、それはぜんぜん意味のわからない話なので。別の形で告知したいな、と思います。

工刀: なるほど。

清涼院: 読んでない人は、その話は意味不明すぎますので。

工刀: まず読んでからですね、作品を。

清涼院: そうですね。

工刀: ということで、皆さーん、秋月さんの作品も、よろしくお願ひしまーす! って、こうやって宣伝していいのかな?

清涼院: もちろん。それで、おそらく、いつものパターンで、待ってても質問は出ないと思いますので、名残惜しいですが、ここらで Ending に入りたいと思います。音楽をかけて、最後にご挨拶して終わり、という形にしたいと思います。間もなく「Cast Party 2021」も終わろうとしています。皆さん、今日は年末のお忙しい中、長時間ご参加いただき、本当に、ありがとうございました。今回は2回目の Zoom イベントということで、去年の反省点も活かして、いろいろできたかなと思っています。そして何より重要だったのが、やっぱり来年 (2022 年) に 10 周年ということで。そのタイミングで蘇部さんから明るい話を聞けたりとか。それで僕も心が明るくなりましたし。作家さんたち、出演者の皆さんが未来を見据えていて、これからの活動がますます楽しみになりました。そして、10 周年という節目で英語版『すべてが F になる』という企画を発表できたことは本当に良かったと思います。10 周年がひとつの終わりになるのではなく、来年はまた新しいことが始まる年にしたいと思っています。そして、先ほどのご質問の際にもお話ししましたように、来年は 10 周年ですので、Cast Party は、おそらく開催するはずです。ただ、どのような形になるかは本当にコロナ次第ですので、それを見て判断して、来年の 10 月あたりには発表したいと思います。ともかく、今現在、日本での感染者はだいぶ減っていますが、まだまだ油断してはいけない段階であるのは間違いないです。皆さん、何かあるかわからないので、本当に、コロナに気をつけて。おからだにお気をつけて。また来年、笑顔で再会できるといいな、と願っています。そして、また、その先も、こういう感じで恒例行事として、年末のイベントとして続けていけたらいいなと思います。皆さんの応援あつての The BBB ですので、これからもよろしくお願ひいたします。本日は本当にありがとうございました!



(この「Cast Party 2021」は、2021年12月12日に開催されたZoomイベントをeBook化したThe BBB: Breakthrough Bandwagon Booksのオリジナル作品です)

The BBB の「Cast Party」シリーズ



Cast Party 2015 (Jp)

<https://thebbb.net/jp/ebooks/cast-party-2015.html>



Cast Party 2016 (Jp)

<https://thebbb.net/jp/ebooks/cast-party-2016.html>

The BBB の「Cast Party」シリーズ



Cast Party 2017 (Jp)

<https://thebbb.net/jp/ebooks/cast-party-2017.html>



Cast Party 2018 (Jp)

<https://thebbb.net/jp/ebooks/cast-party-2018.html>

The BBB の「Cast Party」シリーズ



Cast Party 2020 (Jp)

<https://thebbb.net/jp/ebooks/cast-party-2020.html>